

棚POWER[®]操作テキスト
棚割・帳票作成編 (Ver17.00)

2009年12月

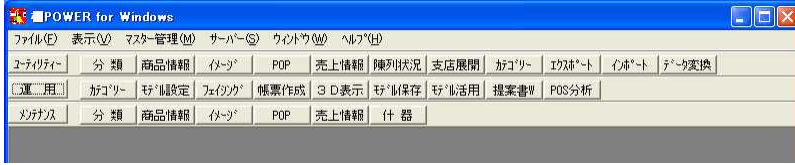


目次

1. 棚 POWER の起動とモデル作成準備 -----	1
起動方法・画面構成.....	1
マスター概要とカテゴリーグループ	2
2. モデル作成（基本） -----	4
モデル設定.....	4
画面・ボタン説明.....	6
什器編集 1	6
棚追加・棚複写・棚移動・棚削除・調整・詳細設定	
商品リスト.....	9
基本的な商品陳列方法	10
商品挿入・商品複写・商品移動・商品削除	
3. モデル作成（応用） -----	11
応用的な商品陳列方法 1	11
表示切替・配置調整・面変更	
応用的な商品陳列方法 2	12
積上・積下・手前挿入	
応用的な商品陳列方法 3	14
投込・ダミー商品・未陳列・仕切板	
参照モデル・什器編集 2	15
参照モデル・台複写・連結	
応用的な商品陳列方法 4	18
オプション・余裕率・圧縮率・商品詳細	
仮置き・オプション.....	20
その他のフェイスング機能	22
在庫編集・POP・印刷	
4. 帳票作成 -----	25
帳票作成 1	25
棚割図・棚割図表・棚割図表(罫線)・設定保存・読込	
帳票作成 2	29
棚割表・棚割表(罫線)	
帳票作成 3	31
陳列情報	
5. モデル保存 -----	31

棚POWERの起動とモデル作成準備

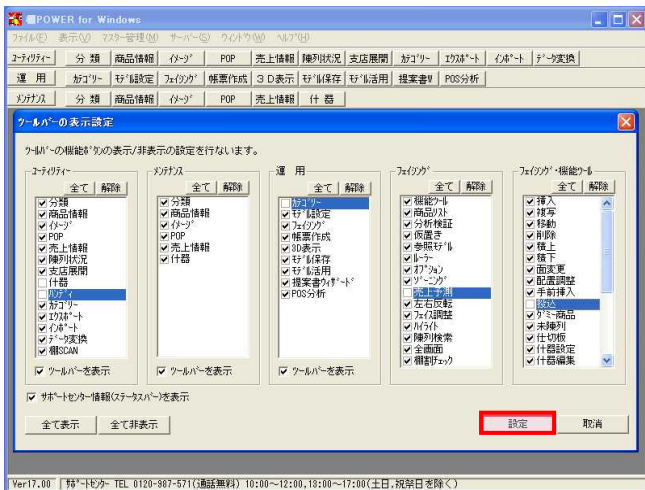
1. 棚POWERを起動します。
スタート ボタン プログラム POWERS 「棚POWER for Windows」を開きます。
2. 画面の構成を確認しましょう。



3. 棚POWERは大きく3つの機能に分かれています。
ユーティリティー：登録済みデータを外部に出力したり、外部のデータ (Excelや業界標準データ) を取り込むための機能です。
運用：棚POWERのメイン機能です。マスターに登録した情報を基に棚割作成を行ない、帳票出力や分析を行ないます。
メンテナンス：棚POWER上で商品情報や売上情報 (得意先情報) などの各マスターを登録、修正、削除するための機能です。
この「棚割・帳票作成編」では、初めに「メンテナンス」で登録されている情報を確認し、その後「運用」を中心に進めて行きます。

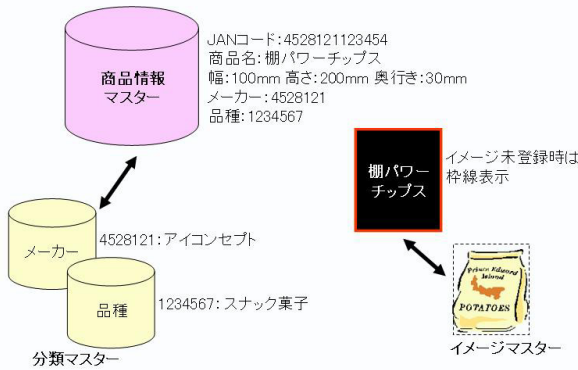


4. 棚POWERは多くの機能があるため、表示しているボタンも多数ありますが、必要な機能ボタンのみを表示することも可能です。
後ほど説明する、フェイスング画面起動後に表示する機能ツール内のボタンもここで設定可能です。
表示メニューから「ツールバーの表示設定」を開きます。



5. チェックが付き、有効になっている機能ボタンが表示されます。非表示にしたい場合は、使用しない項目のチェックを外して無効にし、設定 をクリックします。

各マスター概要



6. 棚POWERで棚割作業を行なうためには、左記のように各マスター(基本情報)の構築が前提となります。

7. 分類マスターについて確認します。
 マスターとは、基本となるデータのことで、

メンテナンス・ 分類 をクリックします。

「商品を陳列する際にメーカーや品種から商品を絞り込む」「品種別に商品の分布を確認する」など棚POWERでは分類属性を切り口に商品情報を扱います。この分類属性を管理するのが分類マスターです。

分類マスターに分類属性を登録すると、商品マスターの「分類」欄で一覧から選択できるようになります。

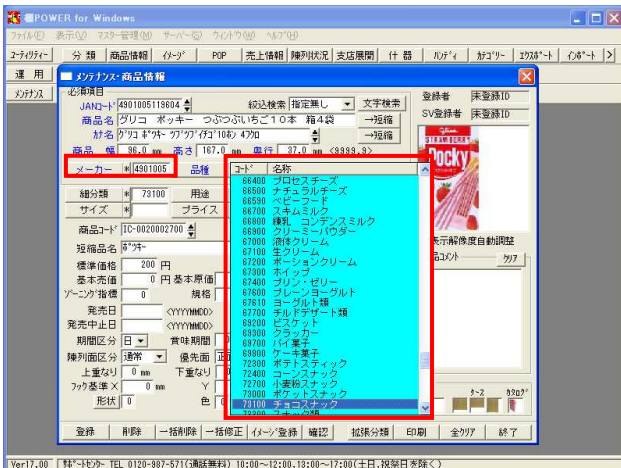
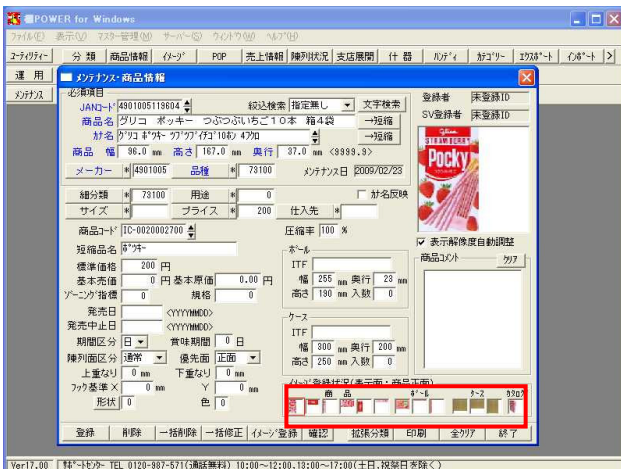
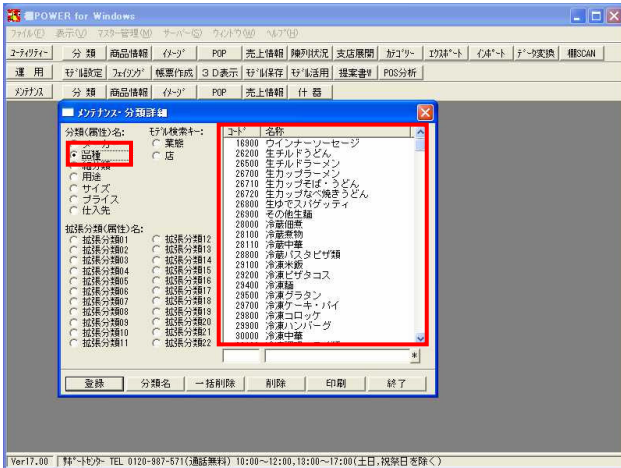
左側で分類属性を選択すると、右側にその一覧が表示されます。

8. 商品マスターについて確認します。

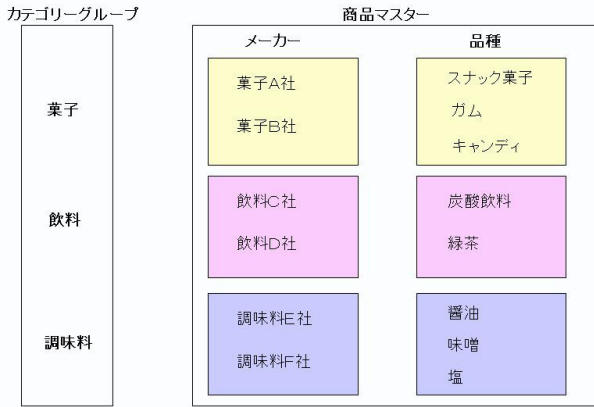
メンテナンス・ 商品情報 をクリックします。

棚POWERでは、一商品につき、多くの情報を登録できます。商品を棚に陳列した状態を再現し、様々な情報を帳票に出して活用することができます。

9. 分類マスターで保持しているメーカーコードや品種コードは、一商品ごとに関連付けられています。



カテゴリグループとは



10. 次にカテゴリグループの登録を行ないます。

棚割を作成する際、陳列に使用する商品の括りをカテゴリグループとして登録します。

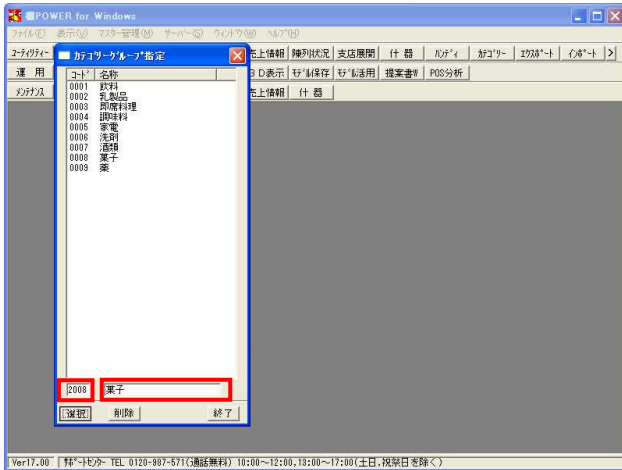
「メーカーと品種」「原産地と味」「ブランドと内容量」の組み合わせなど、登録済みの分類属性を自由に組み合わせることが可能です。

組み合わせた内容は、後ほど学習する「フェイスング」上で商品選択の絞り込み基準となり、商品を目的別に選択、陳列しやすくなります。

11. カテゴリグループを作成します。

運用・ カテゴリ をクリックします。

左側のテキストボックスに4桁の数字を、右側にカテゴリグループの名称を入力して 選択 をクリックします。

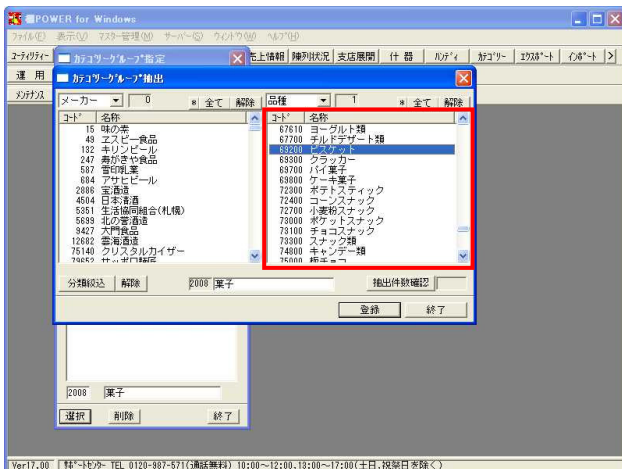


12. 絞込みに使用する分類を選択します。

中分類と小分類のような階層でなく、メーカーと品種のように系統の異なる分類にする方が絞込みに適しています。分類の変更も可能です。

例えば、菓子売場に陳列する商品を絞込みたい場合は、該当する菓子の品種を選択します。

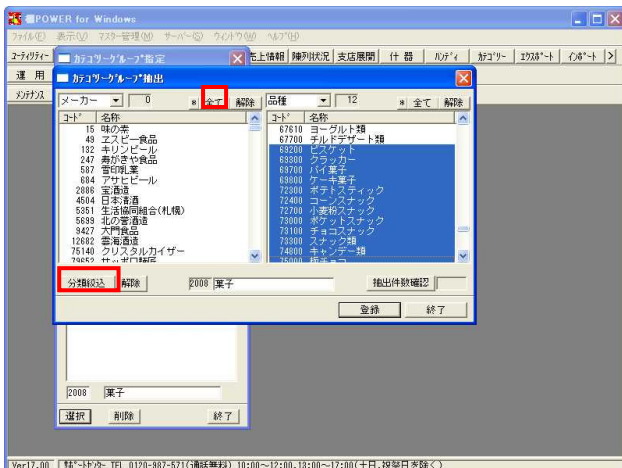
Shiftキーを押しながらクリックすることで範囲指定、Ctrlキーを押すことで複数指定が可能です。

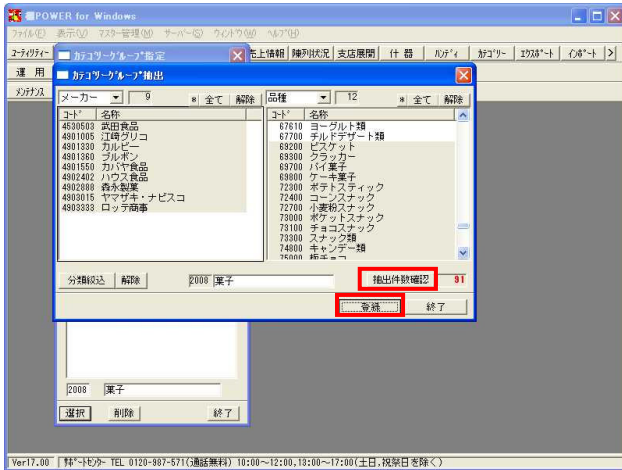


13. 品種の選択が終了した時点で、 分類絞込 をクリックします。この操作により、右側で選択した品種に含まれる商品のメーカーのみを絞込み、表示することが可能です。

品種同様、絞込みに使用するメーカーを選択していきます。

表示しているメーカーすべてを選択する場合は、 全て をクリックします。

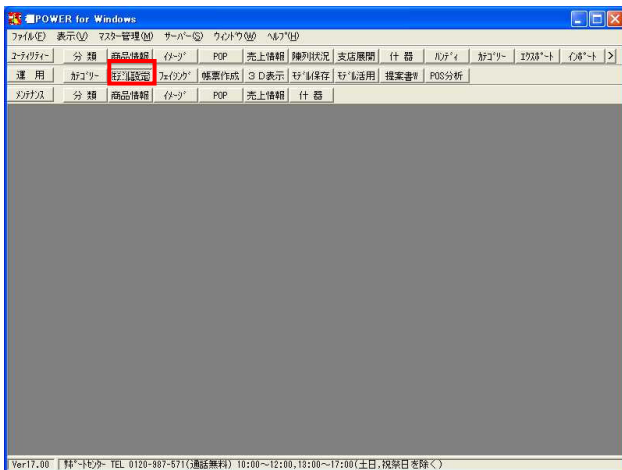




14. 抽出件数確認 で、該当商品の件数確認が可能です。

登録 をクリックすればカテゴリーグループの登録が完了します。

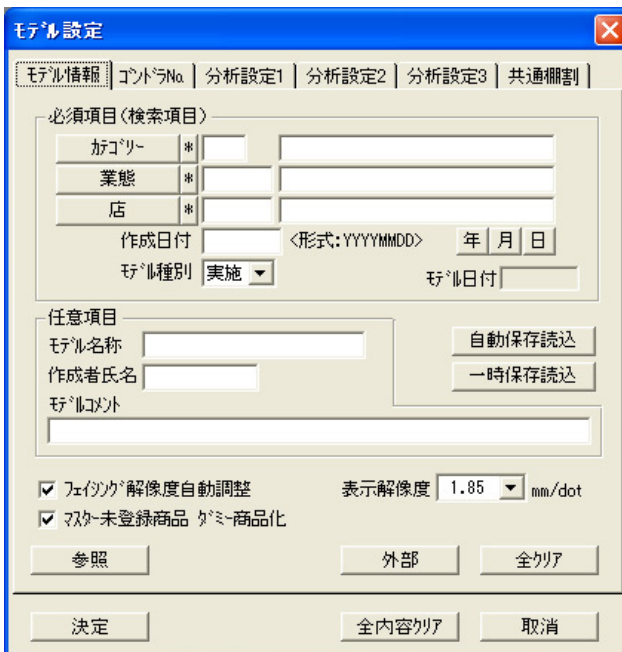
モデル作成



15. 棚POWERでは、作成する棚割のことをモデルと言います。モデル設定では、これから作成するモデルがどのカテゴリーグループを使用するか、どの店の棚割か、などを設定します。

過去に作成したモデルを参照し、呼び出すのにも使用します。

モデル設定 をクリックします。



16. 必須項目には、カテゴリー・業態・店・作成日付・モデル種別があります。

カテゴリー：作成したカテゴリーグループは、このカテゴリー内に反映されます。どんな棚割を作成するかによりカテゴリーも変更する必要があります。

業態：たとえばスーパーやコンビニといった店舗形態を登録します。

店：どこの店、売場の棚割なのかといったことを登録します。

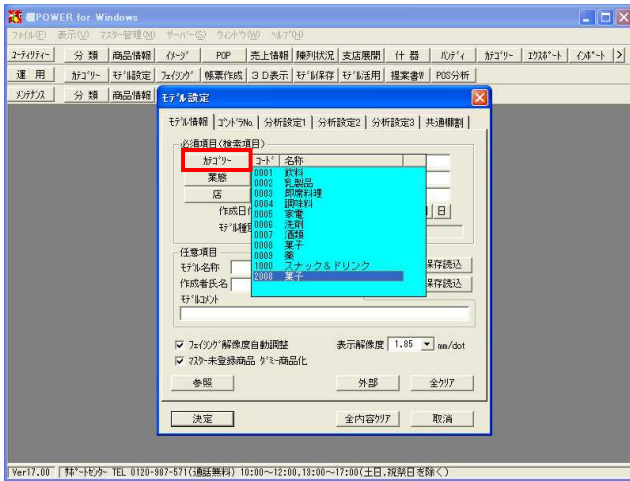
作成日付：直接入力、もしくは日をクリックすると、本日日付を自動で入力します。

モデル種別：実施と提案があり、グループ分けのようなものです。内容の違いはありませんが、次回棚割を「提案」、実際に採用したモデルを「実施」として利用するというルール付けなどを行ない使用する方法もあります。任意項目には、モデル名称と作成者氏名、モデルコメントがあります。任意項目ですが、モデル名称は後からモデルを判別するのに重要な項目なので、社内ルールに基づいて付けておくことを推奨します。

モデルコメントは必要に応じて、モデル名称を補完する詳細情報の入力、または、半角24桁を超えるモデル名称をつける際などに利用してください。

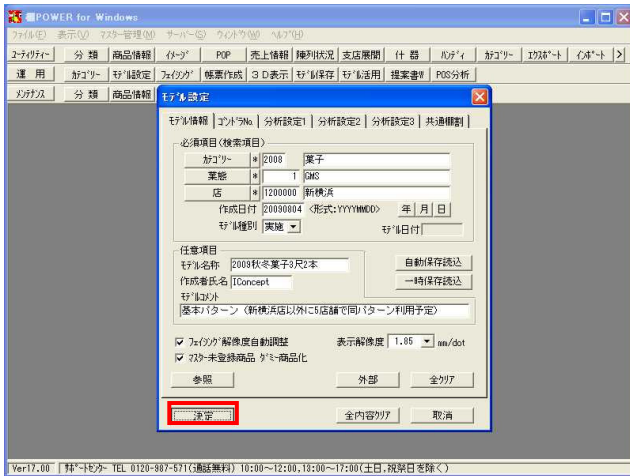
「フェイシング解像度自動調整」を有効にすると、フェイシング画面内に棚割イメージが収まらない場合でも、自動で画面内に表示するように解像度を調整します。

「マスター未登録商品ダミー商品化」を有効にすると、商品情報（マスター）に未登録の商品でも、ダミー商品として表示します。

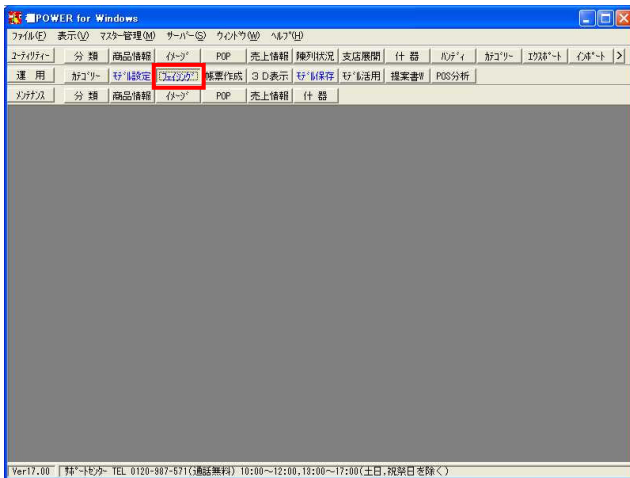


17. カテゴリー をクリックします。
表示された一覧より、使用するカテゴリーグループを選択します。
作成したカテゴリーグループは、ここに反映されます。
どんな棚割にするかで使用するカテゴリーグループも変わってきます。

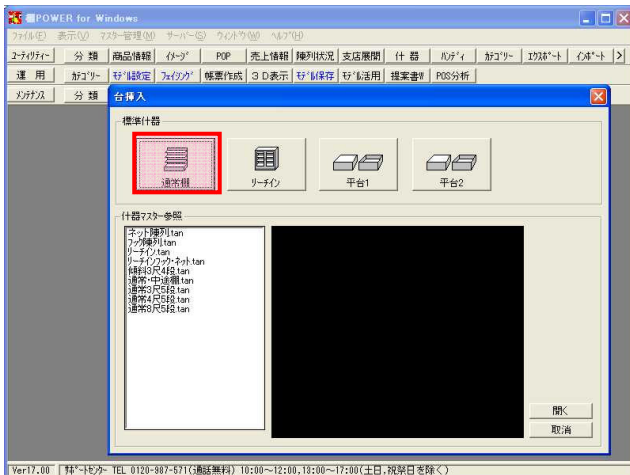
以下業態・店等の項目も同様に設定します。



18. 各項目の入力が完了したら、決定 をクリックします。

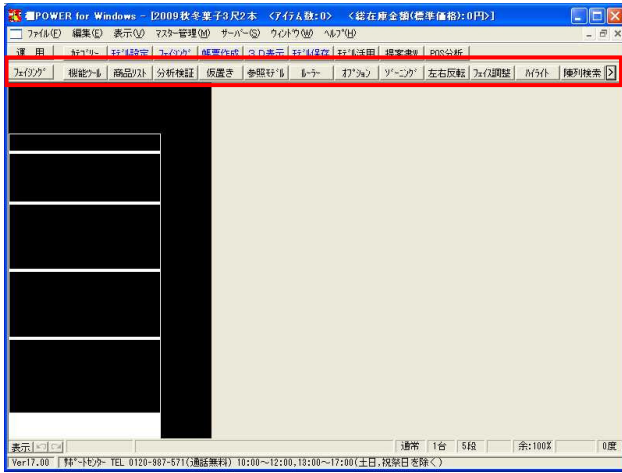


19. モデル設定を終えると、現在利用できる機能のボタンの文字が青くなります。
続いて、フェイシング をクリックします。

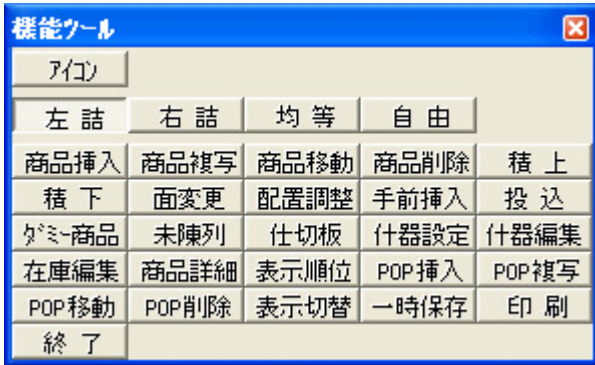


20. 新規作成の際は、台挿入ウィンドウが表示されるので、これから作成するモデルで使用する什器を選択します。

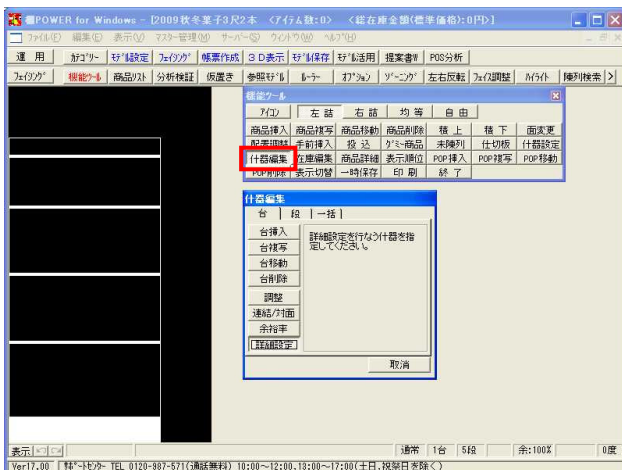
通常棚 をクリックします。



21. この画面を「フェイスング画面」といい、棚POWERでは棚割作業のことをフェイスングと言います。棚割に関するすべての作業がこの画面に集約されているため、フェイスング中はツールバーの構成が変わり、フェイスングサブメニューが表示します。フェイスングサブメニューの各ボタンはクリックすることで、表示・非表示を切り換えることができます。表示中は赤い文字、非表示の場合は黒い文字になります。

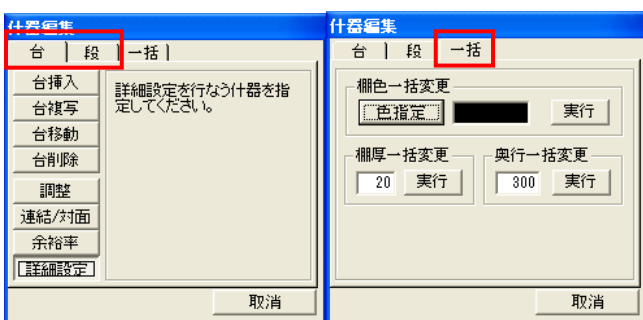


22. フェイスングで使用する機能は、この「機能ツール」に集約しています。機能ツールの操作のポイントは、実行したい機能を先に選んでおいて、それから機能を反映させたい場所をクリックすることです。



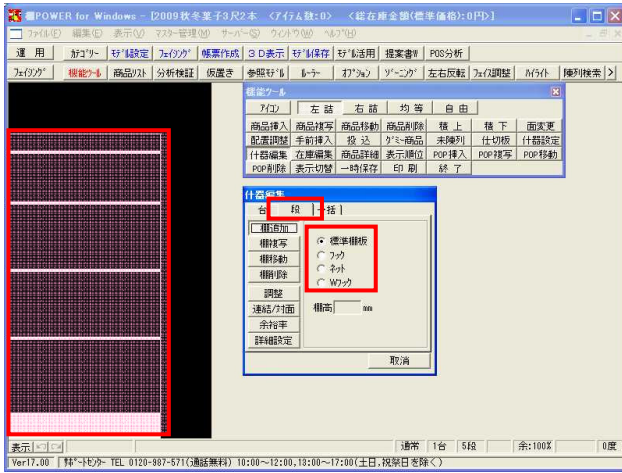
23. 商品を陳列する前に、什器の編集を行ないます。機能ツールの中の「什器編集」をクリックします。

什器編集では、台と棚の挿入や複写、移動、削除などが可能で、大きく[台]と[段]で機能が分かれています。



24. [台]タブには「台挿入」～「台削除」など、台に関する機能があります。[段]タブには「棚追加」～「棚削除」といった、棚に関する機能を集約しています。[一括]タブには「棚色」「棚厚」「奥行」を一括で変更する機能を集約しています。

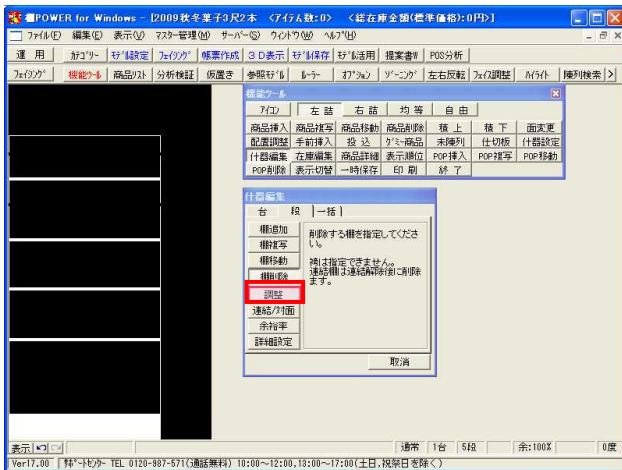
[台]と[段]は分かれています。調整 から 詳細設定 までの下4つは、[台]の場合も[段]の場合も同じ機能です。



25. [段]タブから 棚追加 を選び、棚を追加したい台中で一度クリックします。棚板が表示されるので、追加したい位置で再度クリックします。

この際、棚板の種類を標準棚板・フック・ネット・Wフックから選択が可能です。

同じように 棚複写 棚移動 棚削除 を選んだ後に、該当の棚板をクリックし、反映させたい先でクリックします。

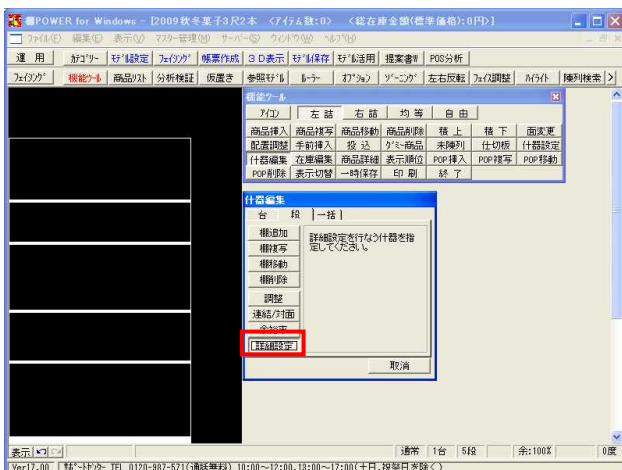


26. 台や棚の変更を行なうには 調整 を使用します。台幅を変更します。
調整 を選択し、調整する部分にマウスポインタを移動すると形状が変わります。
マウスポインタの形状が変わったらクリックして、台幅を広げたい位置まで移動し、位置を確定したら再度クリックします。

27. 台高を変更する場合も同じです。調整したい部分にマウスポインタを移動すると形状が変わるため、クリックして台高を広げたい位置まで移動して、再度クリックします。

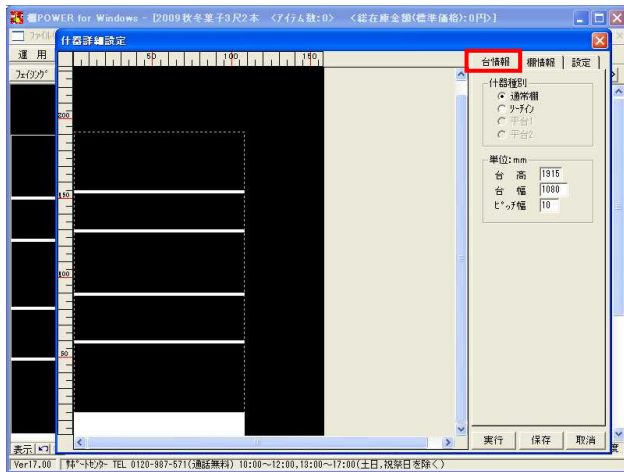
28. 棚の調整も台同様、調整したい棚板にマウスポインタを合わせ、形状が変わったらクリックして、移動したい位置で再度クリックを行ないます。

棚移動 と 調整 の違いは、棚移動 は移動時に陳列商品を含めることができ、上下の棚板間を越えて移動が可能で、調整 は上下の棚板間を越えての移動はできないが、連結した棚を移動することが可能な点です。(P17 68.「連結」参照)

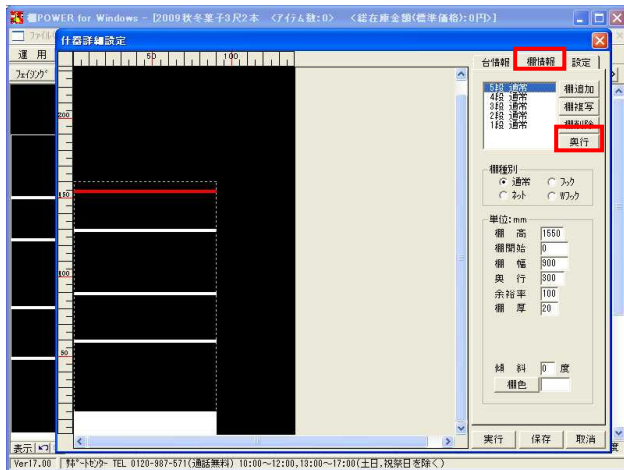


29. 什器編集・調整 や 棚移動 などを使用すれば、台や棚の変更が可能です。あらかじめ什器のサイズなどが決まってい、数値を入力して什器の設定を行ないたいという場合には、 詳細設定 を使用します。

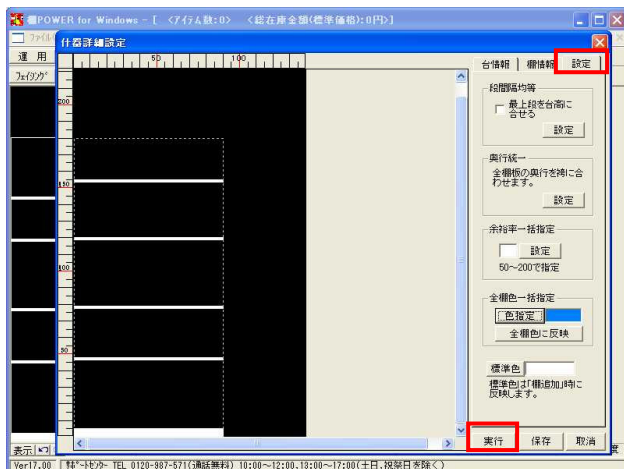
詳細設定 をクリックした後、設定をしたい台をクリックして指定します。



30. 什器詳細設定ウィンドウが開きました。
この画面は[台情報],[棚情報],[設定]とタブが分かれています。
[台情報]では什器種別の変更や、台高,台幅,ピッチ幅の変更が可能です。



31. [棚情報]では、通常棚をフックに変更するなど、棚種別の変更や、棚高,棚幅,奥行等の変更が可能です。
- 奥行 をクリックすると、什器を横から見た表示となり、奥行の確認が容易です。
もとの正面表示に戻すには、正面 をクリックします。

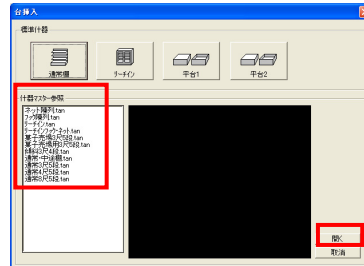
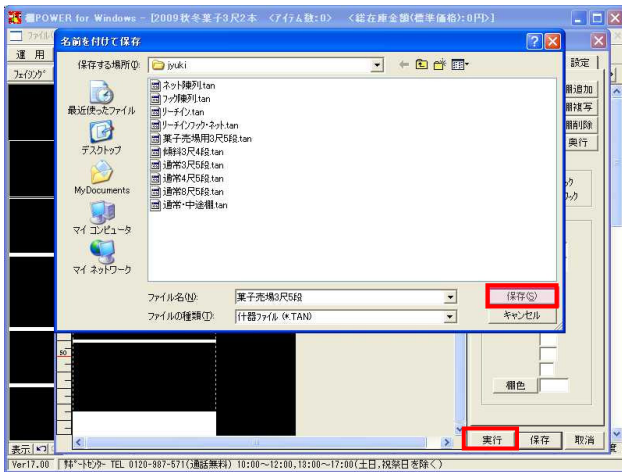


32. [設定]では、段間隔均等や奥行の統一、欄色の指定などを一括処理できます。
33. 設定が完了したら、実行 をクリックし、変更内容を反映します。

34. また、ここで設定した什器を保存し、什器マスターとして登録すれば、毎回同じ設定をする手間も省けます。

保存 をクリックし、「名前を付けて保存」でファイル名をつけて保存を実行します。

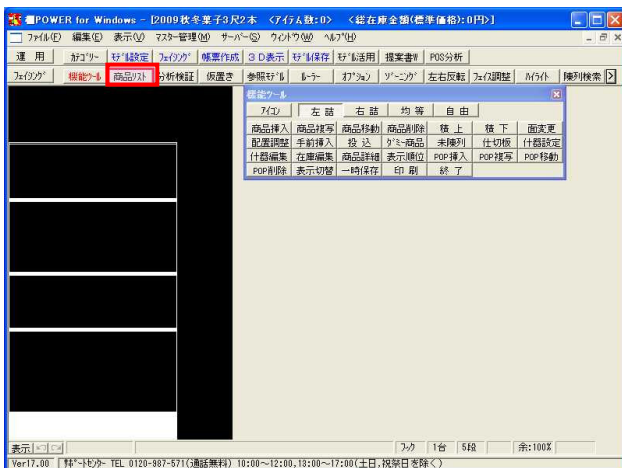
保存した什器は、什器編集・台・ 台挿入 から呼び出して使用します。



台挿入ウィンドウ左下の「什器マスター参照」から、該当の什器を選択して、開く をクリックします。その後、フェイスング上で台を挿入したい場所でクリックします。

35. 什器の編集が完了しました。続いて商品を陳列していきます。商品の陳列には、機能ツールのほかに商品リストを活用します。

商品リスト をクリックします。

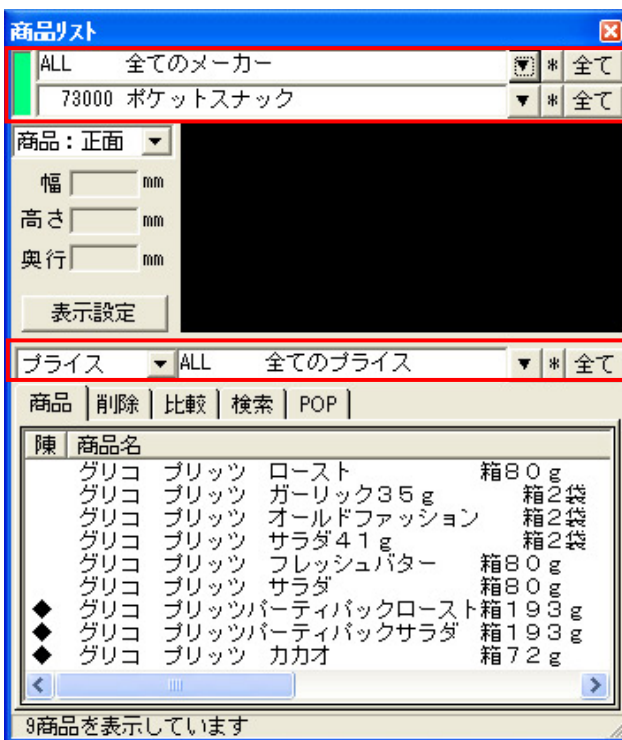


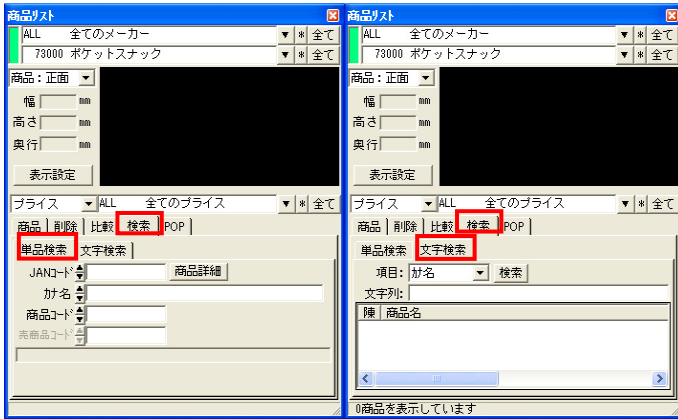
36. この商品リストに、カテゴリーグループ登録の際に選択した分類が反映されます。今回はメーカーと品種です。

分類を選択して絞り込むことにより、表示する商品も絞り込まれ、商品の選択が容易になります。

全メーカーの1品種というように表示したり、逆に1メーカーの全品種を表示したり、1メーカー1品種の商品のみを表示したりというように、陳列する商品を選択しやすいうように表示して使用します。

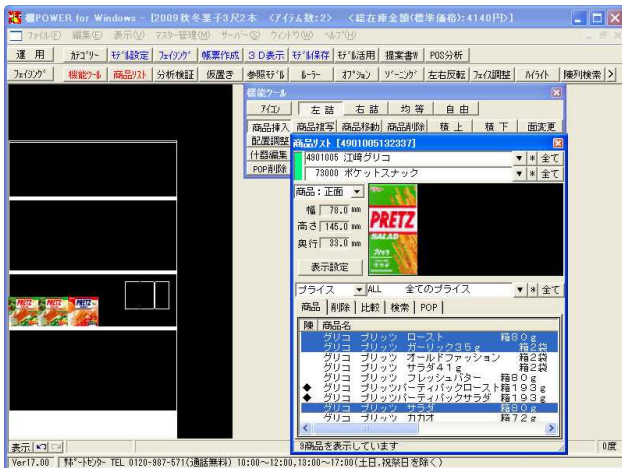
リスト中段にある、第3の分類属性を指定すれば、さらに絞り込みが可能です。





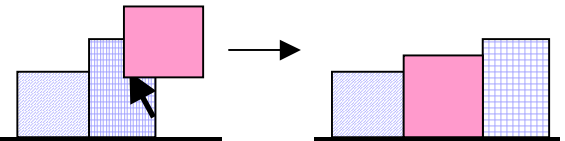
37. カテゴリーグループ以外の商品も商品リストの[検索]を使用すれば、陳列することができます。

この[検索]は全登録商品から行ないます。
[検索]には単品検索と文字検索があり、1品だけを検索するには単品検索、複数検索するには文字検索を使用します。

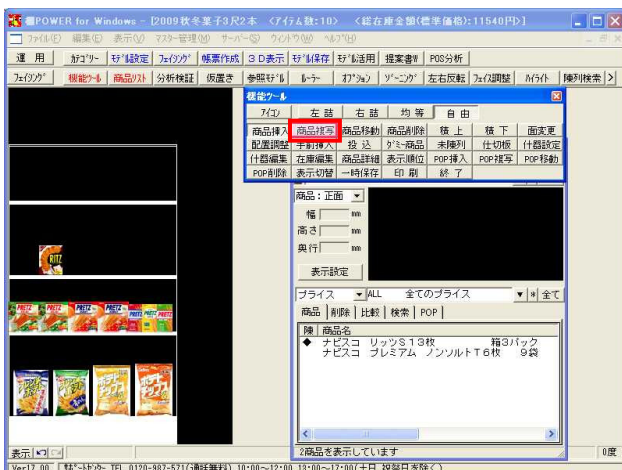


38. 商品リストから陳列したい商品を選択すると、機能ツールの 商品挿入 を自動で選択します。
商品を選択したら、陳列したい棚内部でクリックします。
商品リストから陳列する商品をCtrlキーやShiftキーを押しながら、複数選択し、棚内部でクリックすれば複数商品をまとめて陳列できます。

機能ツールの 左詰 が選ばれている場合は棚のどの位置でクリックしても、左詰で商品を並べていきます。
右詰 均等 自由 の場合も、それぞれ言葉の通りです。
下記図 参照

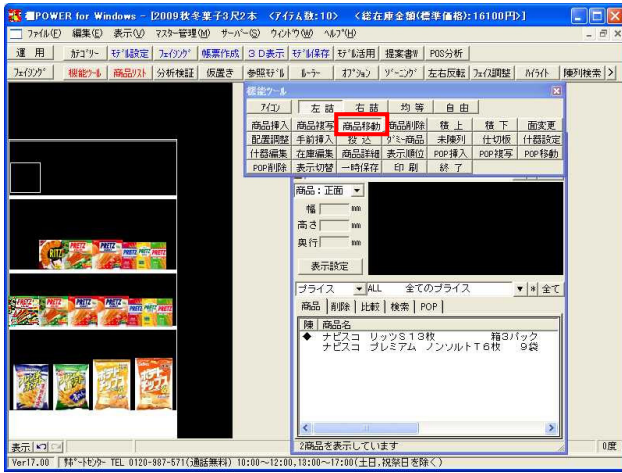


陳列済の商品と商品の間に、新たな商品を挿入したい場合は、挿入したい場所の右側の商品をクリックすると、間に入れることができます。



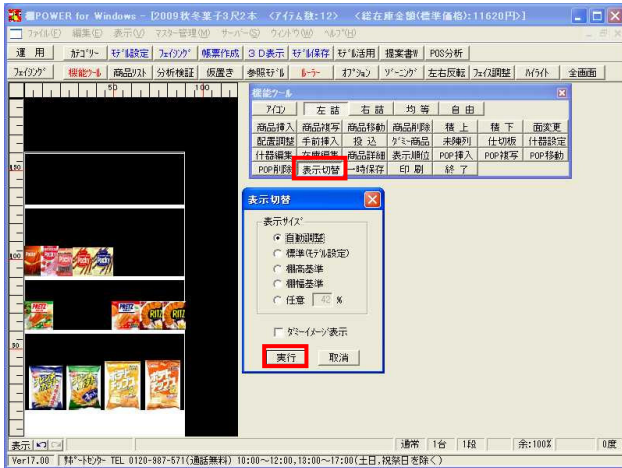
39. 商品複写 を使用すると、容易にフェイス数を増やすことができます。
機能ツールの 商品複写 をクリックし、棚内の複写したい商品をクリックして選択します。

このときドラッグ(範囲選択)して複数選択すると、複数まとめて複写することができます。



40. 機能ツールの **商品移動** を選び、棚内の移動したい商品をクリックします。複写と同じようにドラッグすることで、複数選択し、まとめて移動させることができます。

41. 機能ツールの **商品削除** を選び、棚内の削除したい商品をクリックします。複写、移動と同じようにドラッグすることで、複数選択し、まとめて削除することができます。



42. 棚割全体の表示が大きすぎる場合、または小さすぎる場合は、**表示切替** で表示サイズを変更することができます。

什器の台数や取扱商品によって表示サイズを変更すると、棚割作業を円滑に行なえます。

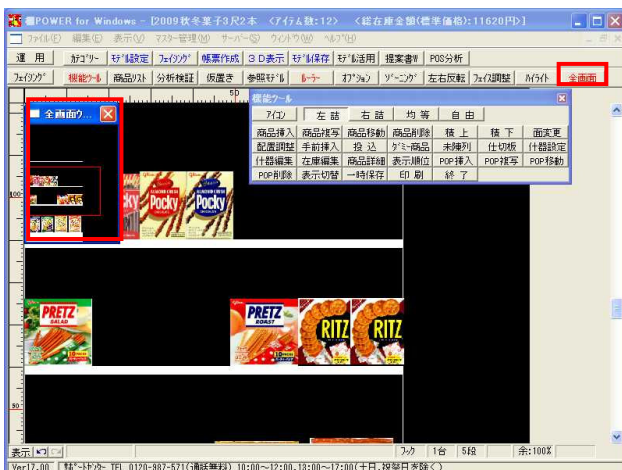
機能ツール・**表示切替** をクリックします。表示切替ウィンドウの中から、変更したい表示サイズを選択して、**実行** をクリックします。

自動調整：フェイスングウィンドウ内にすべて収まるように表示します。

標準（モデル設定）：モデル設定・表示解像度で設定したサイズで表示します。

棚高基準、棚幅基準：それぞれ什器の高さ、幅に合わせて、フェイスングウィンドウ内に収まるように表示します。

任意：上記の「標準（モデル設定）」で表示するサイズを100%とし、それに対して10～300%までの数値を任意で指定し、表示します。



43. フェイシングサブメニューの **全画面** を使用すれば、同時に棚の全体を確認できます。

小さな商品を陳列する際に、表示切替で「標準（モデル設定）」を選択した場合などに有効です。

モデルを開く度にフェイスングウィンドウにすべて収まるように表示したい場合、モデル設定の「フェイスング解像度自動調整」を有効にすると、フェイスングを開く際に「自動調整」がかかるため、毎回表示切替を行なう必要はありません。



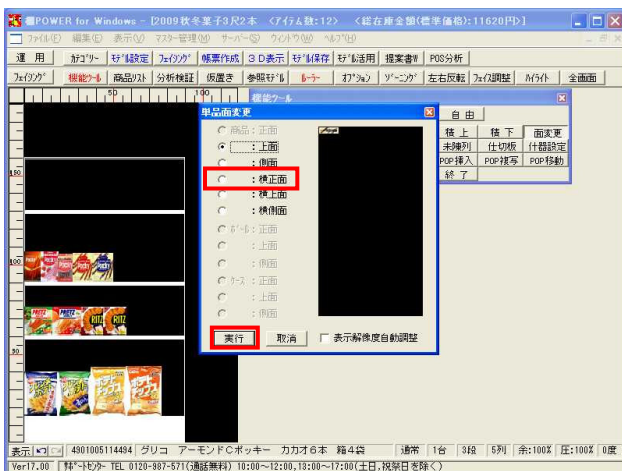
44. 商品を陳列、カットを繰り返していると商品の配置が崩れてきます。陳列した商品の配置は、配置調整を使用することで、うまく調整できます。

機能ツールの配置調整をクリックし、配置調整ウィンドウを表示します。この中から左(前)詰め等の調整したい項目を選び、その後、調整したい棚内でクリックします。

全台一括処理も行なえます。すべての商品を陳列し、最後に左右(前後)均等で全台一括処理を行なうと余白も均等されて陳列が整い効率的です。



45. 陳列済みの商品の面を変更するには、面変更を使用します。機能ツールの面変更をクリックし、面変更ウィンドウを開きます。単品指定を選び、面を変更したい商品をクリックします。



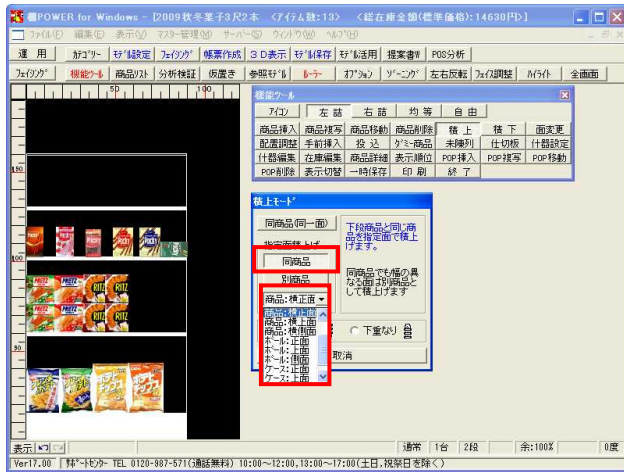
46. 単品面変更ウィンドウが開きます。ここで変更したい面を選択し、実行を押せば、棚にある商品の面が変更されます。

単品以外にも、範囲指定、段指定が可能です。

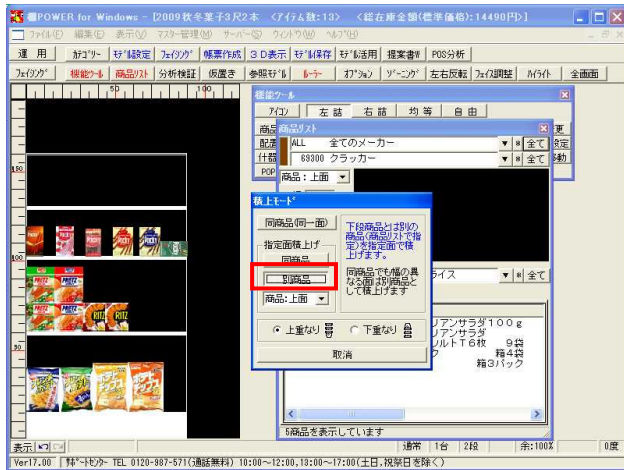


47. 商品を積上げて陳列します。機能ツールの積上をクリックします。

48. 同じ商品を陳列してある面と同じ面で積上げたい場合には、同商品(同一面)をクリックし、積上げたい商品をクリックします。単品でも、ドラッグして複数まとめた積上も行なえます。



49. 同じ商品の別の面を積上げたい場合は、指定面積上げの 同商品 をクリックし、積上げたい面をドロップダウンボタンから選択します。指定面を選択したら、積上げたい商品をクリックします。この場合もドラッグして複数まとめた積上が可能です。



50. 同商品でも幅の異なる面は別商品として積上げます。指定面積上げの 別商品 を選び、積上げる商品を商品リストより選択します。続いて、積上げたい面をドロップダウンボタンから選択し、積上げたい商品をクリックします。



51. 積上げた商品を削除するには、積下を使用します。機能ツールの 商品削除 は、フェイスごと削除してしまうので、積上げた商品のみを削除するには 積下 を使用します。

積下 をクリックし、削除する商品をクリックします。



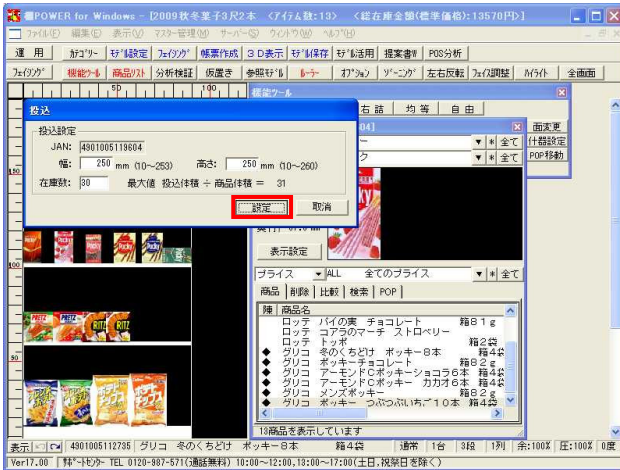
52. 商品を前後に並べての陳列も可能です。たとえば色違いでJANコードの違う商品などを1箇所に陳列する場合などに有効です。

機能ツールの 手前挿入 をクリックします。手前挿入ウィンドウの 挿入 をクリックし、商品リストから手前に陳列する商品を選択します。棚内の、手前に陳列したい商品をクリックすれば、前後に陳列できます。

前後に陳列した商品の順番を変更したり、不要な商品を削除をしたい場合は、編集 をクリックし、手前挿入を行なった商品上でクリックして、「同列商品在庫編集」画面で編集します。

53. 同一の中、小型の商品をまとめてケースやかごなどに陳列する、投込陳列の再現も可能です。

機能ツールの **投込** をクリックします。
 投込陳列をする商品を商品リストから選び、陳列する場所を選んでクリックします。
 投込ウィンドウで、幅と高さを入力します。最大値を確認し、在庫数を入力して、**設定** をクリックします。



54. 正式に登録するには情報の足りない新商品や、他社の商品などをダミーの商品として陳列することもできます。

機能ツールの **ダミー商品** をクリックしてから、棚のダミー商品を陳列させたい場所をクリックします。



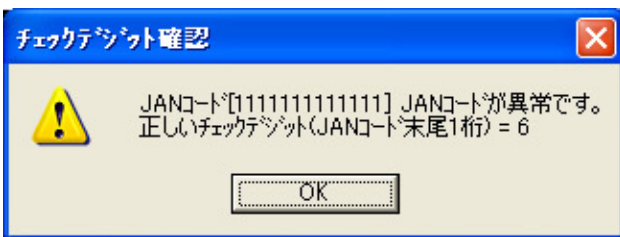
55. ダミー商品ウィンドウで、JANコード、商品名、幅、高さを入力し、**設定** をクリックします。

設定する際は、正式なJANコードが判っていれば、そのJANコードを入力してください。
 正式なJANコードであれば、後にマスターに商品を登録した際に、自動的にダミー商品から正式な商品に置き換わります。

JANコードが不明な場合は、任意の数字で設定可能です。

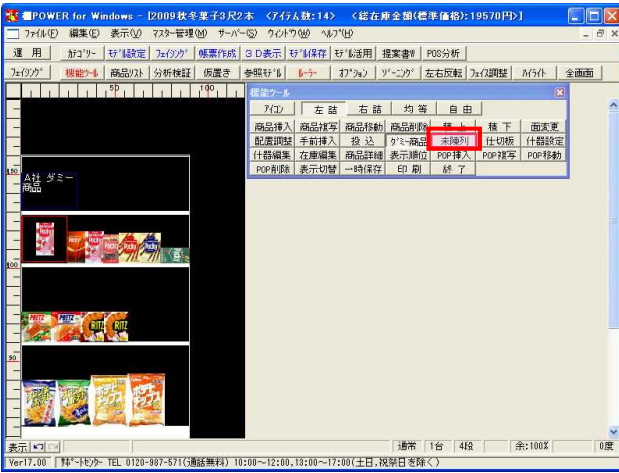


56. 正式なJANコード以外で設定を行なった場合、「チェックデジット確認」画面が表示されることがあります。その際は、末尾をチェックデジットに合わせたものに変更して、設定してください。

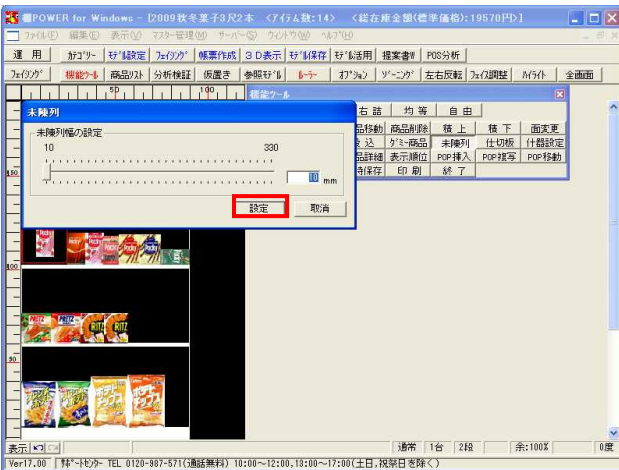


57. 商品は陳列しないけれども領域を確保したい。広告用のモニタなどを置きたいという場合には、未陳列を使用します。

機能ツールの **未陳列** をクリックして、未陳列を挿入したい場所を選んでクリックします。



58. 数値を入力、もしくはスクロールバーを移動させて、未陳列幅の設定を行ない、**設定** をクリックすれば完了です。



59. 仕切板の挿入も可能です。
機能ツール・ **仕切板** をクリックし、 **挿入** をクリックします。
仕切板を挿入したい場所でクリックします。ただし、仕切板を陳列する幅が棚にない場合は挿入できません。

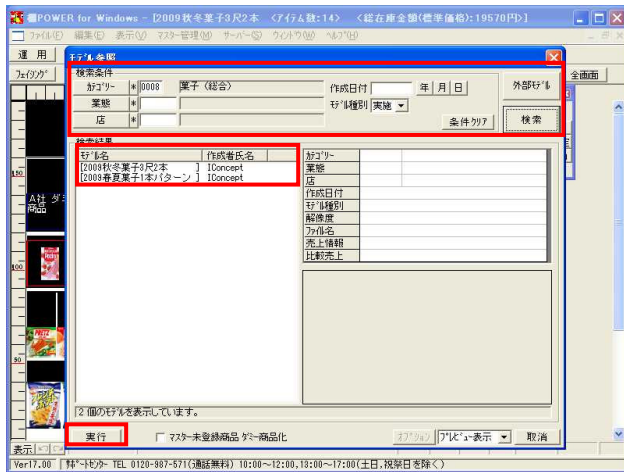
フェイス単位、アイテム単位、また指定段や全台一括での挿入や削除も可能です。



60. 過去に作成したモデルや、他の人が作成したモデルを参考にして、新しいモデルを作成することもできます。
棚POWERでは、過去に作成したモデルをフェイスング中に参照できます。

参照モデル をクリックします。





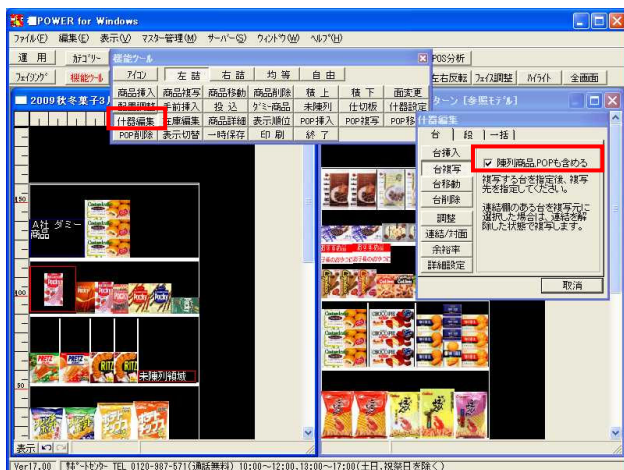
61. モデル参照ウィンドウで、参照したいモデルを選択します。カテゴリーや作成日付など、検索の条件を指定し、検索をクリックして、モデルの一覧を表示します。
62. モデル一覧から、参照したいモデルをクリックし、実行をクリックします。



63. 作成中のモデルと参照モデルが左右に表示しました。ウィンドウメニューから「並べて表示(縦)」を選択すれば、作成中のモデルと参照モデルを上下に表示できます。



64. 参照モデルの陳列商品は、機能ツールの商品複写で作成中のモデルにコピーできます。



65. 商品の複写と同じように、参照モデルの棚や台を陳列商品ごと複写することも可能です。

機能ツールの 什器編集 ・[台]タブの 台複写 をクリックします。このときに、「陳列商品,POPも含める」を有効にすると陳列している商品やPOPごと台を複写してることができます。

66. 参照モデルの複写したい台をクリック、その後作成中モデルの、台を挿入したい場所でクリックします。

作成中モデルのみをもとのサイズで表示するには、作成中モデルのタイトルバーをダブルクリックします。

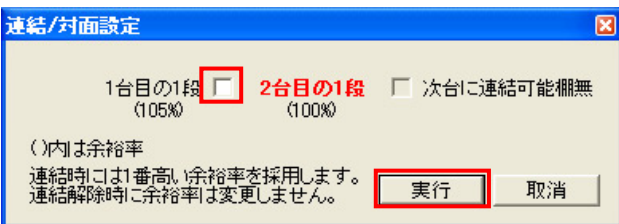


67. 台が複数になり、台と台の仕切りが邪魔になって商品が陳列できない場合などは、台を連結させて陳列することができます。

機能ツールの「仕器編集・連結/対面」をクリックし、連結させたい台と台にある棚をクリックします。



68. 連結させたい場所を有効にして、実行をクリックします。



69. 棚に黄色の印が表示されます。これが連結していることを示すものです。

台を指定しての連結や解除、一括連結、一括解除も可能です。





70. 袋物商品を押し込んで陳列したい場合は余裕率を設定します。

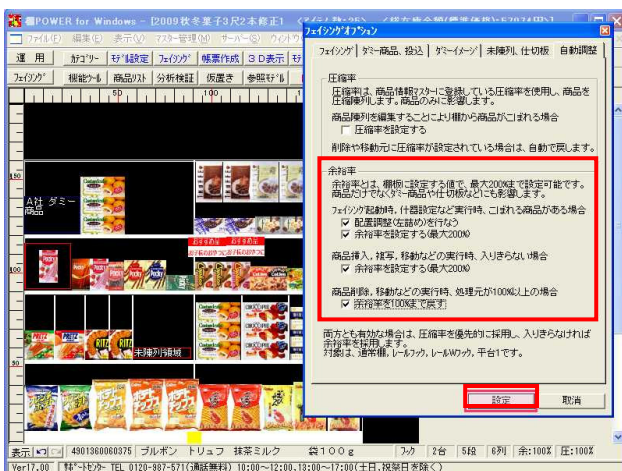
たとえば、通常100%で同じサイズの商品が10個並べられる棚で余裕率を120%にした場合、商品は12個並べられることになります。

仕器編集の 余裕率 をクリックします。



71. 任意の%を入力し、 棚設定 ・ 台指定 ・ 全台 いずれかを選択します。その後、余裕率を設定する棚（もしくは台）をクリックします。

連結している場合は、連結している台両方に余裕率が設定されます。（左図の場合は、1台目、2台目ともに余裕率が設定）
仕器編集・詳細設定・[棚情報]からも余裕率の変更が可能です。



72. 棚に商品が入りきらない場合などに自動で余裕率をかけることもできます。フェイスングの並びの オプション をクリックし、[自動調整]を選択します。

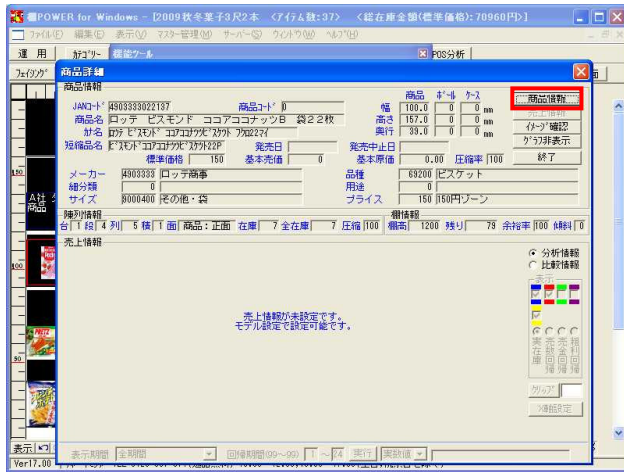
余裕率枠内の項目全てを有効にし、 設定 をクリックします。



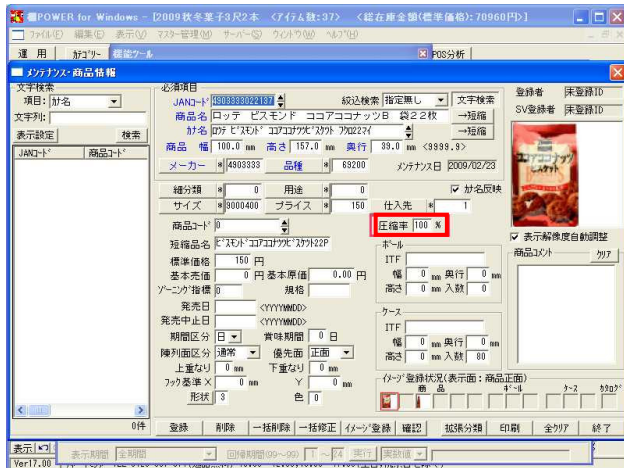
73. 箱物商品と袋物商品を同じ棚に陳列し、袋物商品のみ押し込んだ陳列をしたい場合は、圧縮率を設定します。

余裕率と圧縮率の違いについて説明します。
余裕率は棚・台に対して設定します。そのため、設定した棚、台に陳列している商品全てに対して同じ余裕率をかけます。棚に袋物商品だけが陳列している場合に有効です。
余裕率に対し、圧縮率は棚、台ではなく、商品ごとに圧縮して陳列するかどうかを設定します。そのため、個々の商品情報にどれだけ圧縮するかの設定を行ないます。

圧縮率を設定します。
機能ツールの 商品詳細 をクリックし、詳細を見たい商品をクリックします。

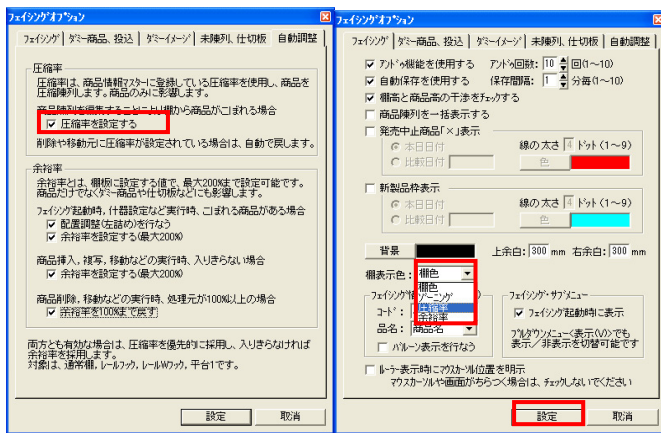


74. 商品詳細ウィンドウの中の 商品情報 をクリックすると、メンテナンス・商品情報のウィンドウが開くため、商品情報の修正などが可能です。



75. 圧縮したい商品の圧縮率を登録します。

圧縮率を100%から80%に変更し、登録 をクリックします。圧縮率は50%～100%まで変更可能です。



76. 余裕率をかける際にも設定しましたが、圧縮率をかける際にもフェイスングオプションの設定を有効にします。

「圧縮率を設定する」にチェックを付けます。圧縮率を設定した商品を棚に陳列していた場合、商品ごとの押し込み陳列を再現します。圧縮率をかけた商品を削除した場合は自動で元の状態に戻します。

[フェイスング]内の棚表示色では、余裕率をかけた棚や、圧縮率をかけた商品を陳列している場合、棚に色を付けて分かりやすいように表示することができます。

棚表示色より「圧縮率」を選択し、設定 をクリックします。



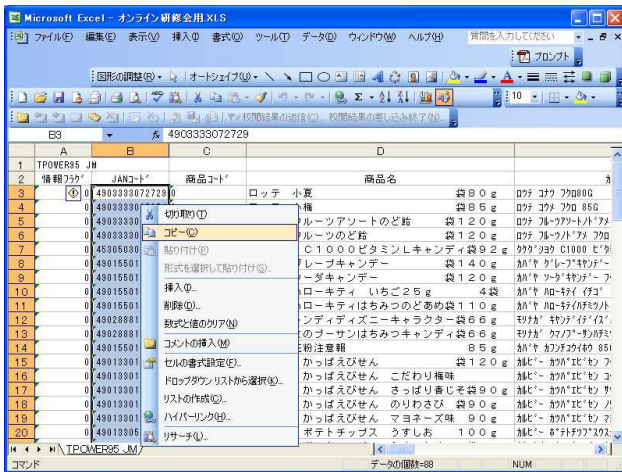
77. 圧縮率をかけた商品を陳列している棚の色が変わります。「圧縮率」の他に「余裕率」「ゾーニング」「棚色」よりいずれか1項目を選択し、棚色に反映することが可能です。



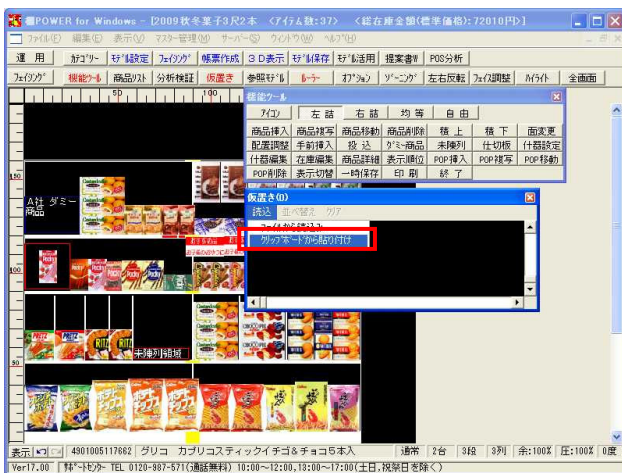
78. 陳列することは決まっているが、陳列位置が決まっていない商品などは、一時的に「仮置き」に置いておくことができます。
仮置きとは、仮に商品を置いておく場所のことです。

フェイスングサブメニューの 仮置き をクリックします。

仮置きには、棚や商品リストから、商品の挿入、移動、複写が可能です。
また、JANコードを読み込んで陳列させることも可能です。



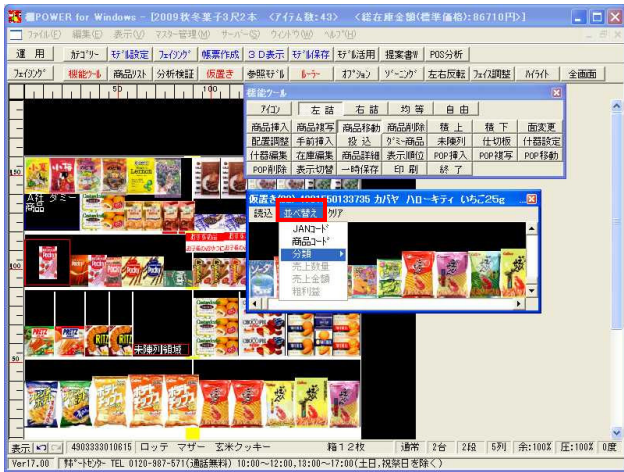
79. JANコードをコピーします。コピーを行ったら棚POWERに戻ります。



80. 仮置きウィンドウの読み込みメニュー・「クリップボードから貼付け」を選択します。

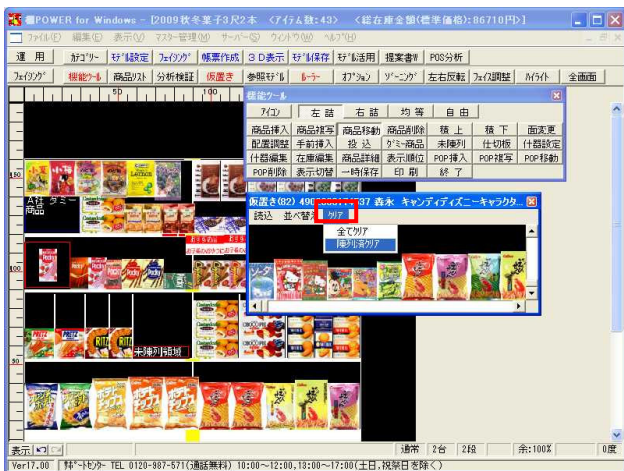


81. コピーしたJANコード商品が、仮置きの中に表示されました。
クリップボードから貼付け以外にも、JANコードのみが記載されたExcel、CSVファイルがあれば、「ファイルから読み込み」で、同様に仮置きに表示することができます。
82. 仮置きにある商品は、商品移動、商品複写 を使用し、棚に陳列可能です。



83. 棚に陳列する際、あらかじめ仮置きの中で並べ替え（ソート）を行なっておけば、効率よく陳列できます。

仮置きウィンドウの読みメニュー・「並べ替え」にマウスカーソルを合わせると、どの順番で並べ替えを行なうかを選択できます。
JANコード（昇順）、商品コード（昇順）、各分類（メーカーコードや品種コード昇順）のほか、売上情報を登録・割り当てている場合は、売上数量や金額順（降順）でも並べ替えできます。



84. 仮置きウィンドウの読みメニュー・「クリア」では、仮置き内の全ての商品を消す「全てクリア」と、現在編集中のモデルに陳列済の商品だけを消す「陳列済クリア」が選択可能です。

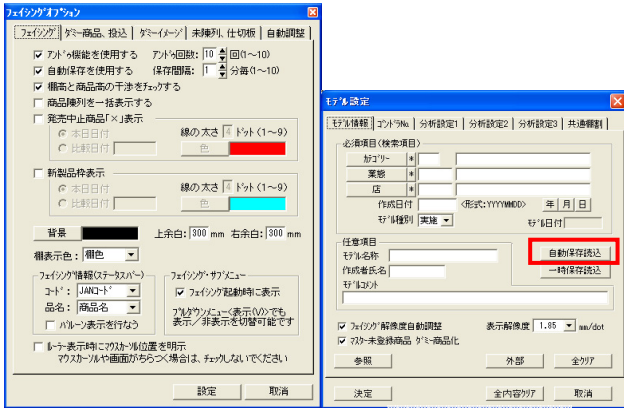


85. オプションを利用すれば、便利な設定や、細かい設定などが行なえます。
余裕率・圧縮率の時に使用しましたが、その他の項目も確認しておきます。

フェイスングサブメニューの オプション をクリックし、[フェイスング]を開きます。

86. 「アンドゥ機能を使用する」、「自動保存を使用する」に、チェックをつけて有効にします。

アンドゥ機能とは、操作を一つ元に戻す機能です。
フェイスング左下の 表示 の右隣の矢印がアンドゥ機能です。さらにその右隣はやり直し機能であるリドゥ機能です。
アンドゥ回数は最大の10回にします。

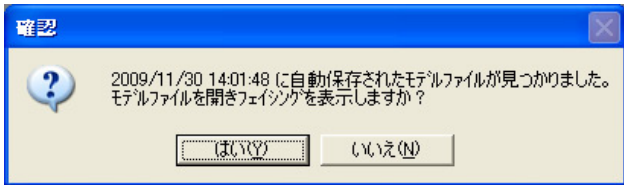


【オプション】

【モデル設定】

87. パソコンが突然落ちてしまったり、またフリーズして再起動したときでも「自動保存を使用する」を有効にしておけば、保存間隔分前の棚POWERの情報を保持しているので、復元することができます。
「自動保存を使用する」を有効にして、保存間隔も最短の1分にします。

作成したモデルを保存せずに誤ってモデルを閉じてしまったなど棚POWERを正常に終了した場合、自動保存を復元するには モデル設定 内の 自動読み込み を使用します。



88. 「自動保存を使用する」が有効な場合、パソコンの強制終了などで棚POWERが異常終了したときは、棚POWER起動時に左図のようなメッセージを表示します。

はい をクリックすると、フェイスグ画面を表示します。必要なモデルであれば、モデル保存を行なってください。

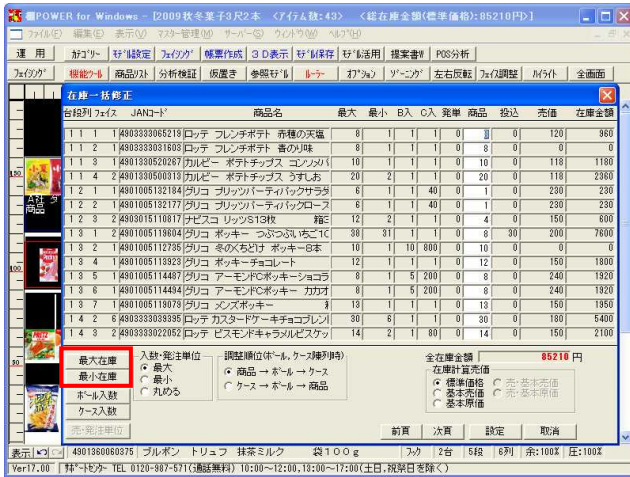


89. タイトルバーにはモデル名、アイテム数とともに、「総在庫金額」を表示しています。
棚POWERでは、什器の奥行と陳列商品の奥行サイズにより在庫を算出し、陳列時には最大在庫を設定します。ただし、商品を陳列した後で奥行を変更した場合は、在庫は自動では増加しません。そのため、後から在庫を調整する必要があります。
在庫を修正したい場合も同じです。

機能ツールの 在庫編集 をクリックします。



90. アイテム単位、フェイス単位での調整が可能です。
アイテム単位の場合は、在庫編集の アイテム単位 をクリックし、在庫修正したい棚の商品をクリックします。
在庫修正ウィンドウが開くので、在庫数の設定を行ないます。



91. 一括修正 を使用すれば、陳列している商品数をまとめて変更することができます。数値を直接入力しての変更も可能ですし、一括で 最大在庫 最小在庫 に合わせることもできます。



92. 商品の挿入と同様に、登録したPOPを挿入することができます。機能ツールの POP挿入 をクリックします。



93. 商品リスト・[POP]から、挿入したいIPOPをクリックして選択します。後は商品挿入と同じように、POPを挿入したい場所でクリックします。POPの複写、移動、削除も商品の複写、移動、削除を行なう場合と同じように行なえます。



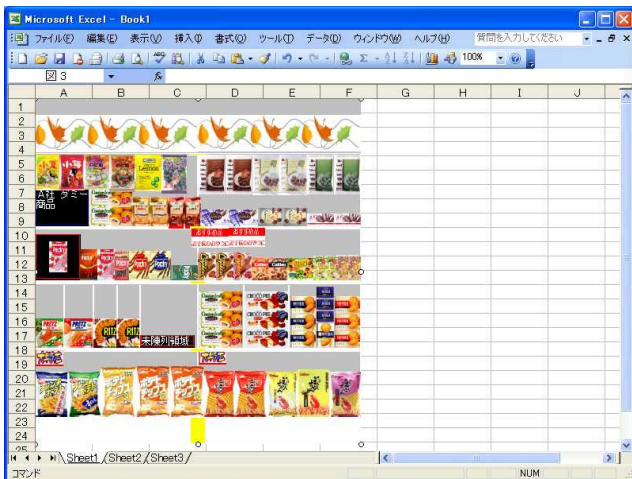
94. フェイシングの画面をExcelなどのソフトに貼り付けたり、ファイル出力するには 印刷 を使用します。機能ツールの 印刷 をクリックします。



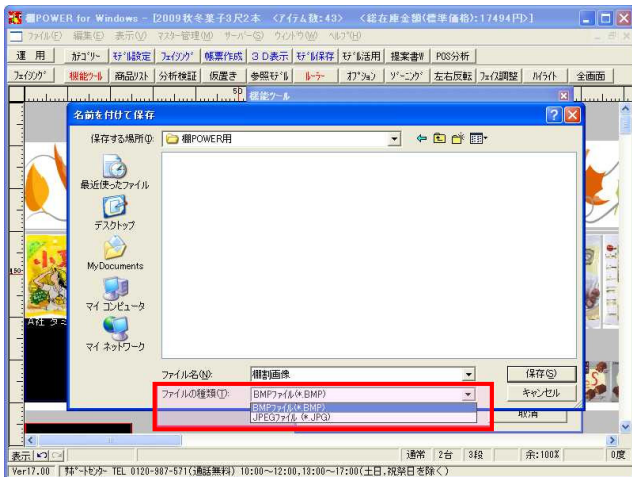
95. 出力設定ウィンドウが開きました。ここからも 帳票作成 が行なえます。
帳票作成のほかに クリップボード への出力と ファイル出力 が可能です。

96. 各出力を行なう前に、あらかじめオプションで出力する台数や背景色を選択しておきます。
出力するモデルの台数を、「全台」もしくは「台別」で指定します。「現在の表示部分のみ」を指定すると、ウィンドウ枠内に表示している部分のみ出力します。
出力する際の背景色も選択可能です。色の設定で任意の色を選択し、OK をクリックすれば背景色の変更は完了です。
表示サイズも表示切替の表示サイズと同じく、「標準 (モデル設定)」、「棚高基準」、「棚幅基準」、「任意」から選択します。

97. オプションの設定が完了後、クリップボード 出力を行ないます。
クリップボード をクリックします。



98. オプション設定にしたがってクリップボードにコピーされるので、Excelなどのソフトを呼び出し、貼り付けます。
Excel上にクリップボードコピーを貼り付けるには、編集メニューの「貼り付け」か、マウスを右クリックして、「貼り付け」を選択します。



99. 同じオプション設定で、ファイル出力 を行ないます。
保存先を指定し、ファイル名をつけます。
このとき、ファイルの種類はBMPファイルもしくはJPEGファイルを選べるので、任意のファイル種類にして保存します。

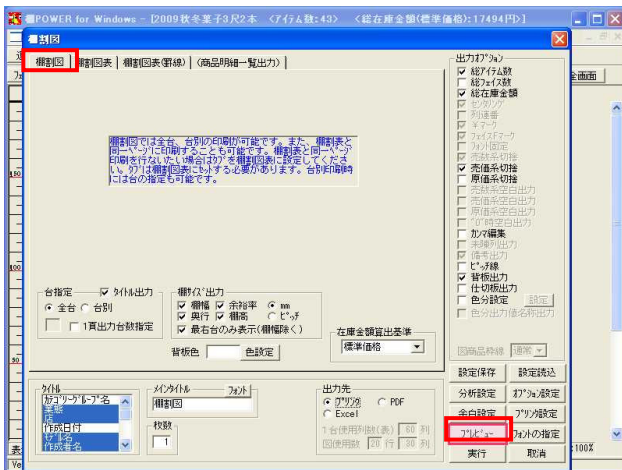
帳票作成



100. モデルの作成が終了しました。続いて帳票を作成していきます。

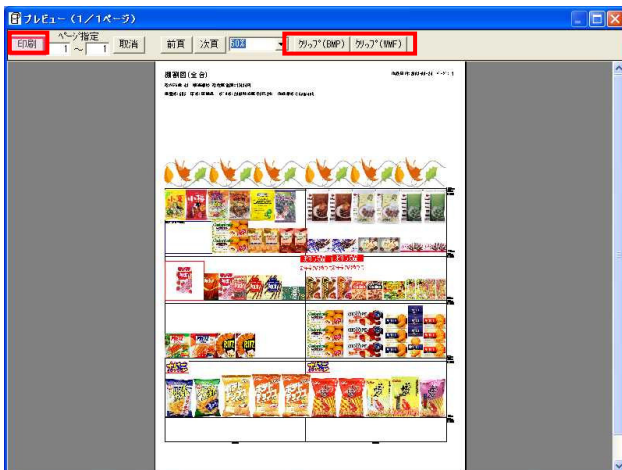
帳票作成 をクリックします。
棚POWERでは、様々な種類の帳票を作成でき、帳票作成ウィンドウでは作成できる帳票の一覧が表示されます。各帳票のボタンにマウスを合わせると、右側の概要説明にその帳票の説明が表示されます。

101. 棚割図を作成します。帳票作成ボタン群の中から 棚割図 をクリックします。



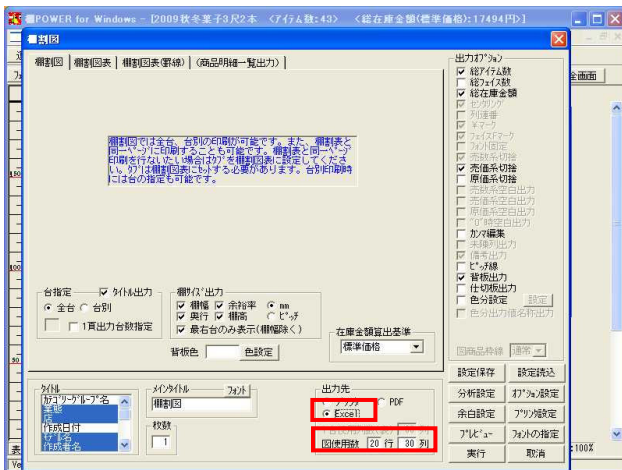
102. 棚割図の中には、[棚割図]、[棚割図表]、[棚割図表(罫線)]があります。まずは[棚割図]を選びます。棚割図とは、フェイスング画面をそのまま帳票に出力したものです。

103. 台指定で全台か台別かを選択します。台別の場合は、出力する台を指定できます。「1頁出力」のチェックを付けると、複数什器のうち範囲指定した台を1枚に出力可能です。出力するタイトルや、必要に応じて出力オプションを設定します。設定が完了したら、出力先を「プリンタ」にした状態で、プレビュー をクリックします。



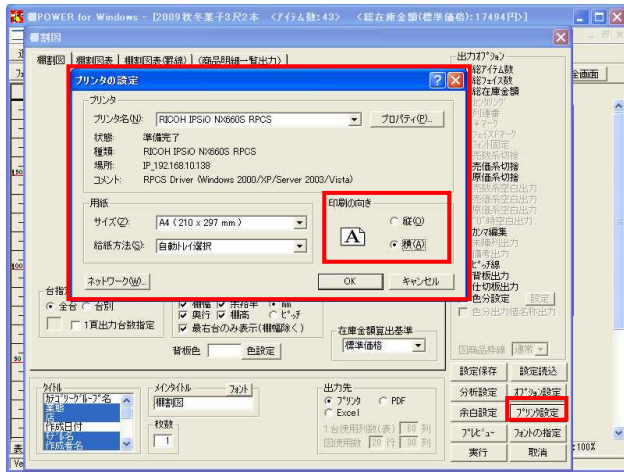
104. プレビューが表示されました。印刷 をクリックすると、印刷を行いません。他のソフトで利用したい場合には クリップ (BMP) もしくは クリップ (WMF) をクリックし、クリップボードコピーを行いません。

プレビュー画面から設定画面に戻るには、 取消 をクリックします。

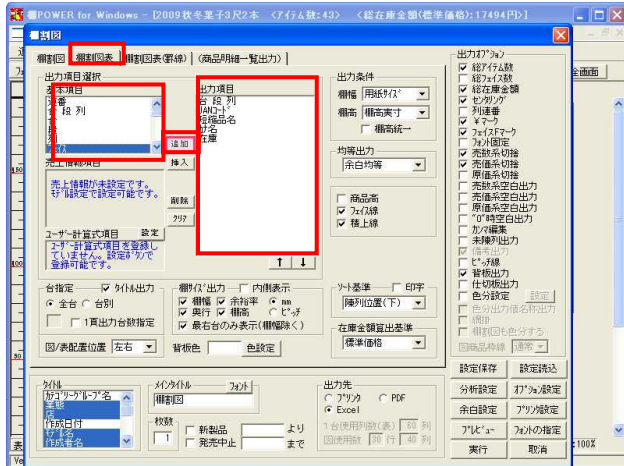


105. Excel形式に直接出力する場合は、出力先「Excel」を選択します。

その際、「印刷行数」で設定する行数、列数によって出力される棚割図の大きさが決まります。



106. 用紙の向きを「縦」から「横」に変更する場合は、**プリンタ設定** をクリックして「印刷の向き」を変更します。

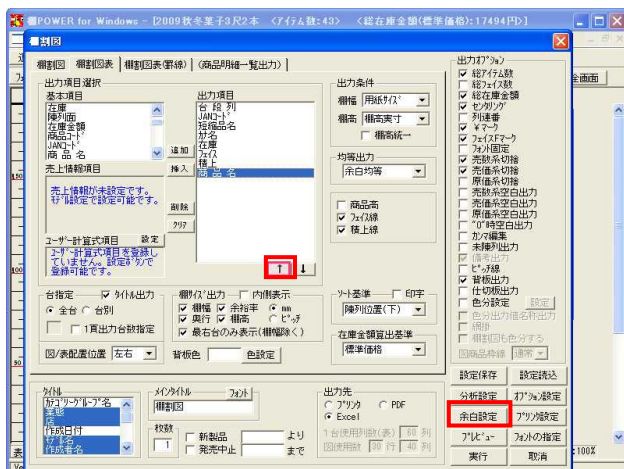


107. 続いて棚割図表を作成します。棚割図表は、棚割図と棚割表を合わせたものです。棚割図同様、全台や台別の出力が可能です。

[棚割図表]をクリックします。

108. 基本項目内の出力したい項目をクリックして選択し、**追加** をクリックして、出力項目に追加します。

Shiftキーや、Ctrlキーを押しながらクリックすると複数指定でき、まとめて追加などが可能です。

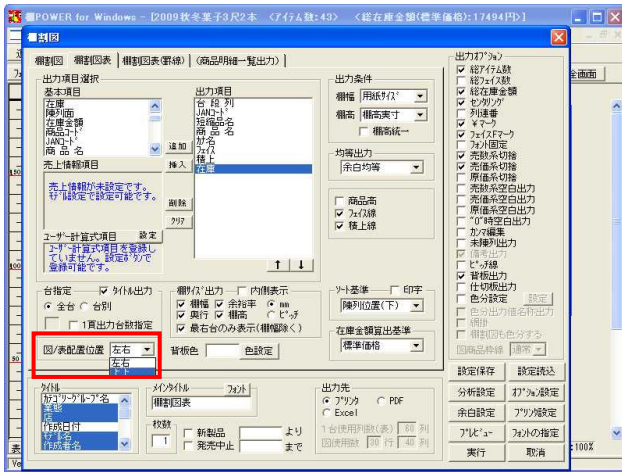


109. 出力項目の出力順を変更する場合は、**移動** を使用します。出力項目内の順番を変更したい項目を選択し、**移動** をクリックして、移動を行ないます。

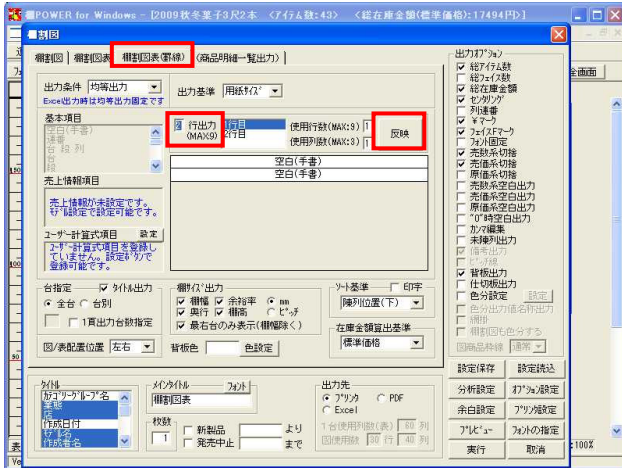
110. 各設定が完了したら、出力先をプリンタにして、**プレビュー** で確認します。



111. **印刷** をクリックすると、印刷を行ないます。棚割図と同じく、**クリップ (BMP)** もしくは **クリップ (WMF)** で他ソフトに貼り付けることもできます。



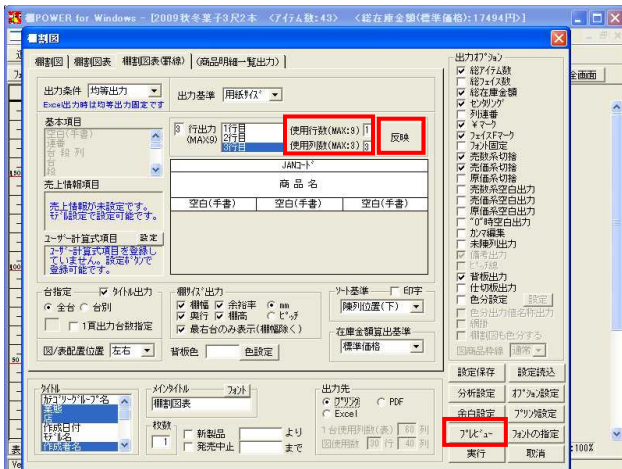
112. 「図/表配置位置」で図と表の並べ方を「左右」「上下」に設定可能です。横方向に大きなモデルなどは上下に配置すると、1ページに比較の見やすく収める事ができます。



113. 棚割図表(罫線)を作成します。
棚割図表(罫線)の特徴はExcelファイル出力時に、表の文字情報がExcelのセル内に収まる点です。後で加工する場合などに便利です。

[棚割図表(罫線)]をクリックします。

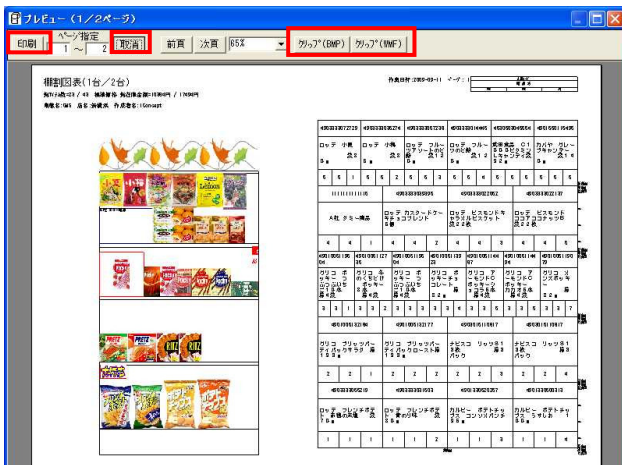
114. まずはレイアウトを設定します。
「行出力 (MAX:9)」内で出力する行数を入力し、**反映** をクリックします。



115. 1行目から任意の行目までが表示されるので、レイアウトを行わない行をクリックして選択し、基本項目から出力したい項目を選びます。

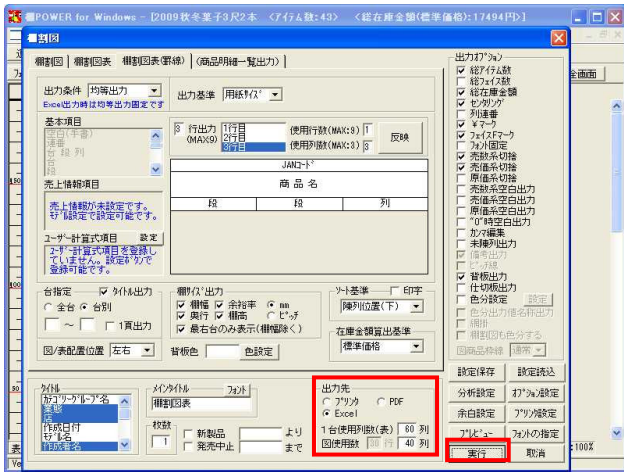
116. レイアウトの行数を変更したい場合には「使用行数：」を変更し、**反映** をクリックします。
レイアウトの列数を変更したい場合には「最大列数：」を変更し、**反映** をクリックします。

117. 設定が完了したら、出力先をプリンタにして **プレビュー** で確認します。



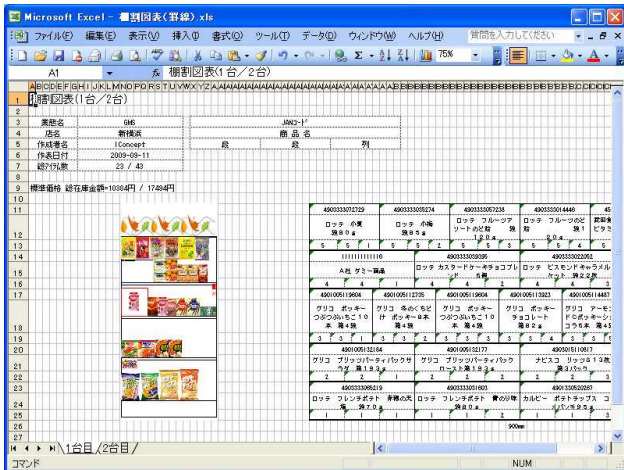
118. **印刷** をクリックすると、印刷を行いません。
棚割図と同じく、**クリップ (BMP)** もしくは **クリップ (WMF)** で他ソフトに貼り付けることもできます。

119. Excel出力を行いません。プレビューを取消します。

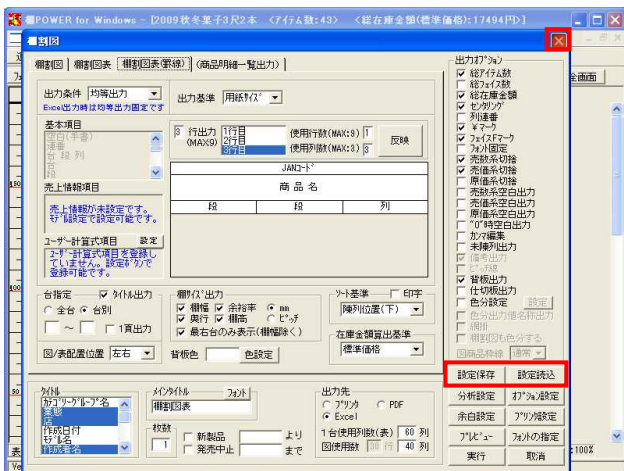


120. 出力先を「Excel」に変更し、実行 をクリックします。

121. [名前を付けて保存]画面で、任意の場所にファイル名をつけて保存します。



122. このようにExcelファイル出力します。

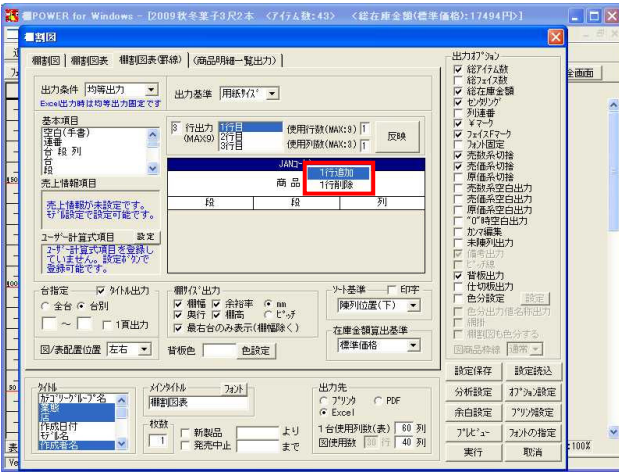


123. 棚POWERでは設定を保存する機能があるため、毎回設定を行なう必要はありません。画面右上の×ボタンで閉じると、×で閉じた際の設定を覚えています。

124. またいくつか設定パターンがあり、使い分けるといった場合には、設定保存 を利用すると便利です。設定保存 をクリックし、任意の場所にファイル名をつけて保存します。保存した設定は、設定読込 から呼び出します。設定読込 をクリックし、保存した設定ファイルを選択し開く をクリックすれば、保存した設定内容を反映します。

この設定の保存方法は、他の棚割表・陳列情報等の帳票でも共通です。

レイアウト設定で行の追加や削除を行なう場合、変更したい部分で右クリックをすると、「1行追加」「1行削除」を選択することができます。



125. 棚割表を作成します。
棚割表とは、陳列棚の各商品の詳細情報を文字で出力したものです。

帳票作成内の 棚割表 をクリックします。

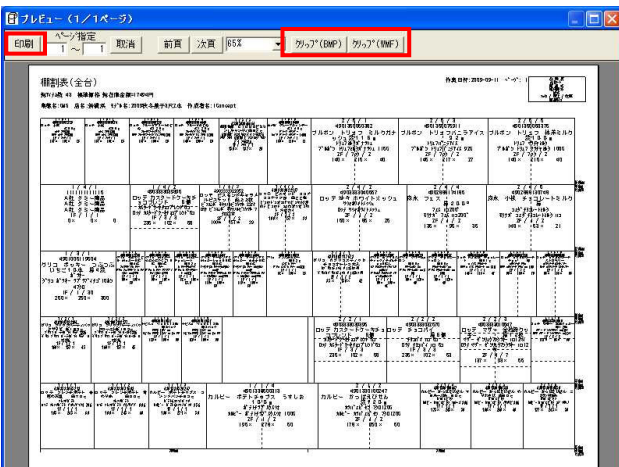


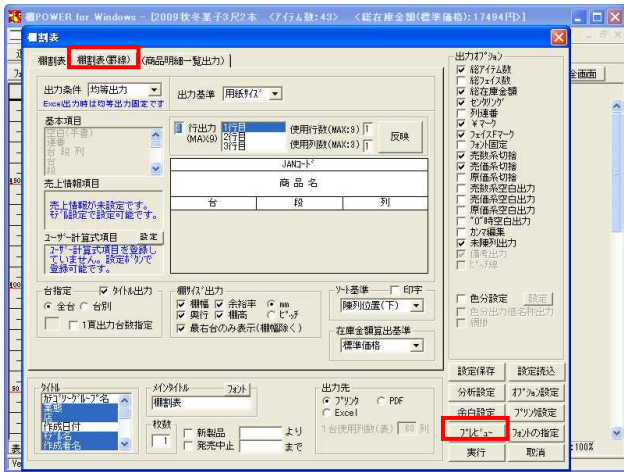
126. [棚割表]、[棚割表(罫線)]があります。まずは[棚割表]を出力します。
設定方法は棚割図表の時と同じです。基本項目から出力したい項目を出力項目に追加します。
台指定やタイトル、出力オプションなどの設定を行ないます。

127. 設定が終われば、出力先をプリンタにし プレビューで確認します。



128. 問題なければ 印刷 をクリックして印刷を実行します。
棚割図、棚割図表と同じく クリップ(BMP) , クリップ(WMF) を使用し、他ソフトに貼り付けることも可能です。



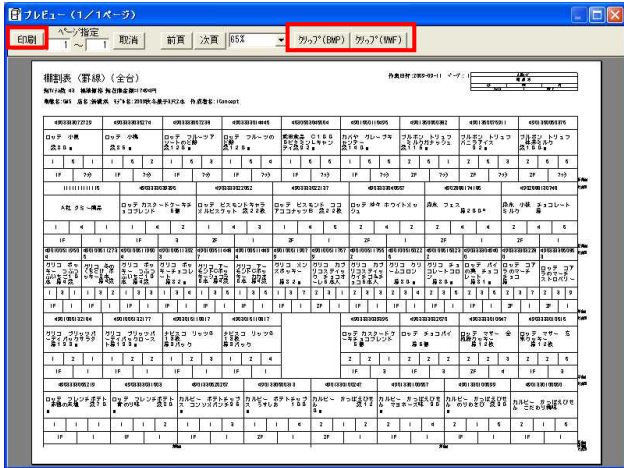


129. 続いて、棚割表(罫線)を作成します。
棚割表(罫線)は、Excelファイル出力が可能です。Excelとして出力したい場合にはこちらを使用します。

[棚割表(罫線)]をクリックします。

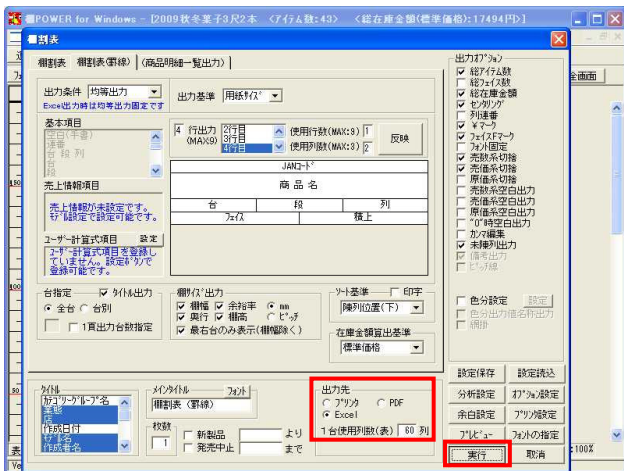
130. レイアウトの設定方法は、棚割図表(罫線)と同じです。(P27 113~「棚割図表(罫線)レイアウト方法」参照)
レイアウト、台指定やタイトル、出力オプションなどの設定を行いません。

131. 設定が完了したら、出力先をプリンタにして プレビュー で確認します。



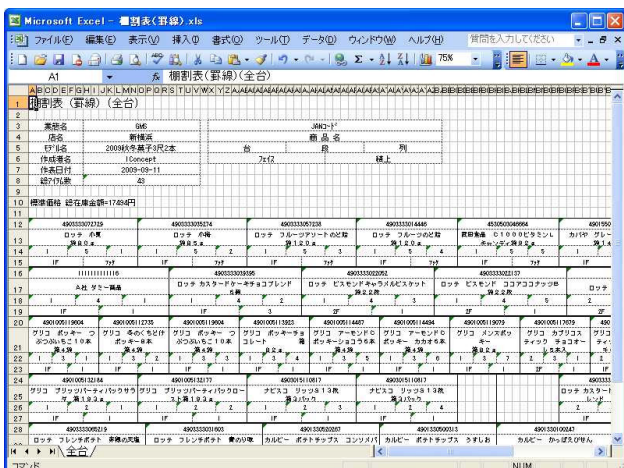
132. 印刷 をクリックすると、印刷を行いません。
棚割図等と同じく、クリップ(BMP) もしくは クリップ(WMF) で他ソフトに貼り付けることもできます。

133. Excel出力を行いません。プレビューを取消します。



134. 出力先を「Excel」に変更して、実行 をクリックします。

135. [名前を付けて保存]画面で、任意の場所にファイル名をつけて保存します。

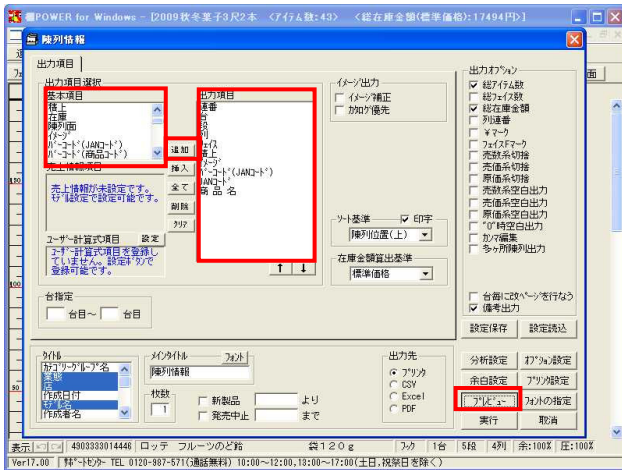


136. Excelファイル出力した棚割表です。



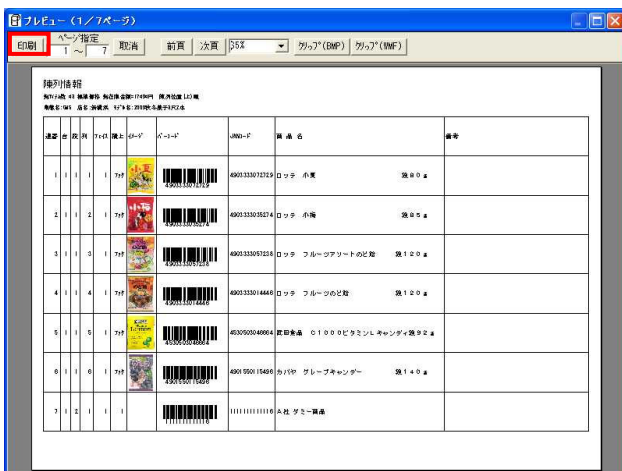
137. 陳列情報を作成します。
陳列情報は、陳列棚の各商品の詳細情報を一覧形式で出力できます。

帳票作成の 陳列情報 をクリックします。



138. 設定手順は棚割図表, 棚割表とほぼ同じです。
基本項目から出力したい項目を、出力項目に追加します。
イメージ、バーコード (JANコード) の出力も可能です。
台指定やタイトル、出力オプションなどの設定を行いません。

139. 設定が完了すれば、出力先をプリンタにして プレビューで確認します。



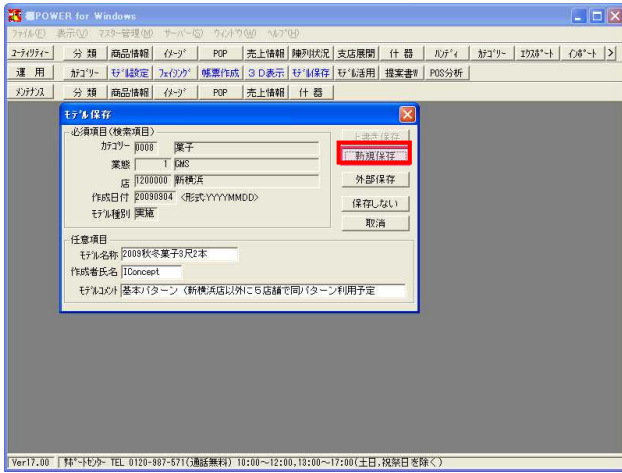
140. 印刷を行なう場合は、このまま 印刷 をクリックします。
出力先はプリンタ以外にも、Excel、CSV、PDFが選択できます。

モデル保存



141. モデルを保存します。
保存手順はいくつかありますが、基本的な方法で保存します。

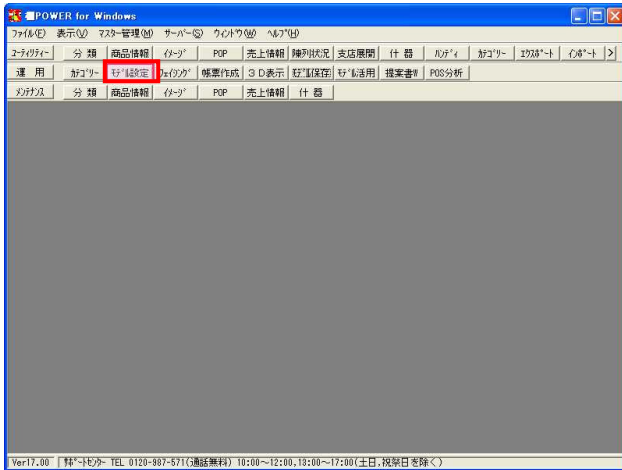
運用・ モデル保存 をクリックします。
確認画面が表示されるので、 はい をクリックします。
フェイシング画面が終了します。



142. モデル保存ウィンドウが開きました。
モデルを新規作成した場合は **新規保存** を表示します。

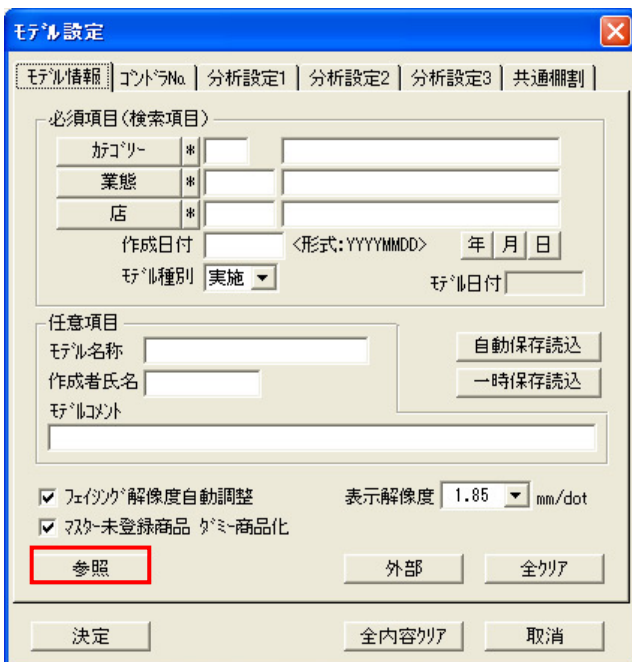
新規保存 をクリックします。
確認画面が表示されるので、**はい** をクリックします。

以上で保存完了です。

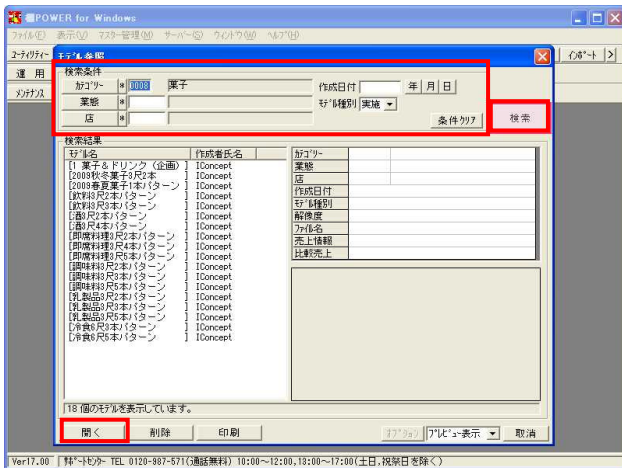


143. 次に、既存のモデルを呼び出す方法と、保存する方法を確認します。

モデル設定 をクリックします。

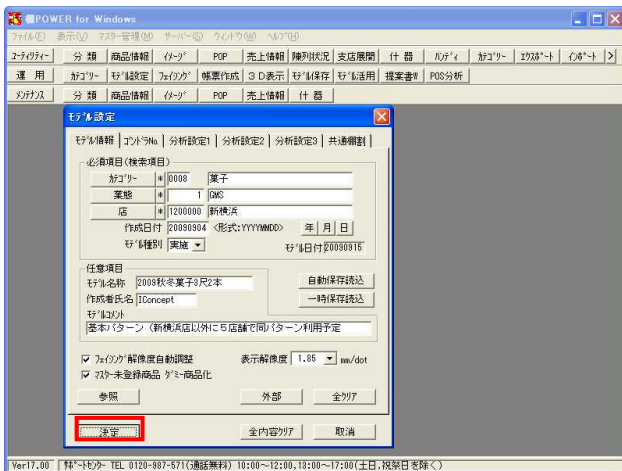


144. 新規作成時は **カテゴリ** を始め、各項目を入力しましたが、過去に作成したモデルを呼び出すには **参照** をクリックします。

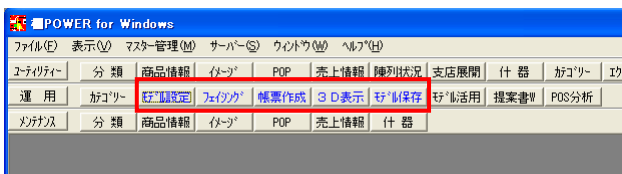


145. これまで作成したモデルの一覧が表示されますが、表示されるモデルの数が多い場合は「検索条件」を使用します。呼び出したいモデルのカテゴリグループや、業態、店、作成日付などを指定し、検索をクリックします。

146. 指定した検索条件に該当するモデルのみが表示されました。この中から呼び出したいモデルをクリックして選択し、開くをクリックします。

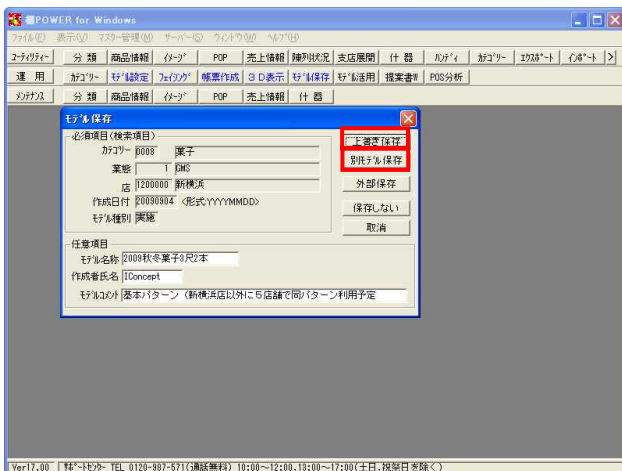


147. 決定 をクリックします。



148. モデルが選択されました。モデルを選択すると、現在利用できる機能のボタンの文字が青くなります。フェイシングを開く場合は、続いて フェイシング をクリックします。帳票作成 や モデル保存 も、フェイシング画面を開かない状態から行なうことが可能です。

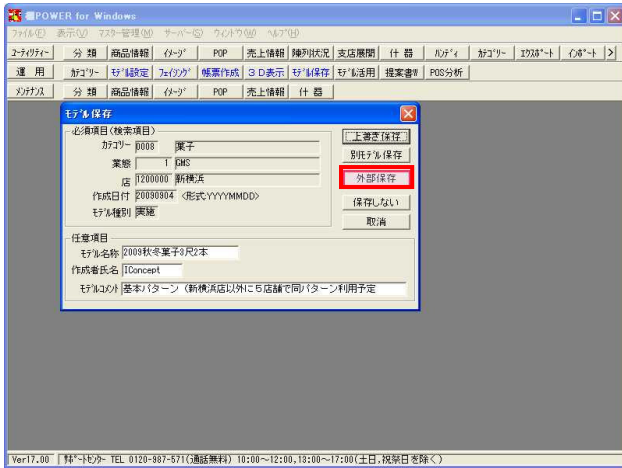
149. モデル保存 をクリックし、モデル保存ウィンドウを表示します。



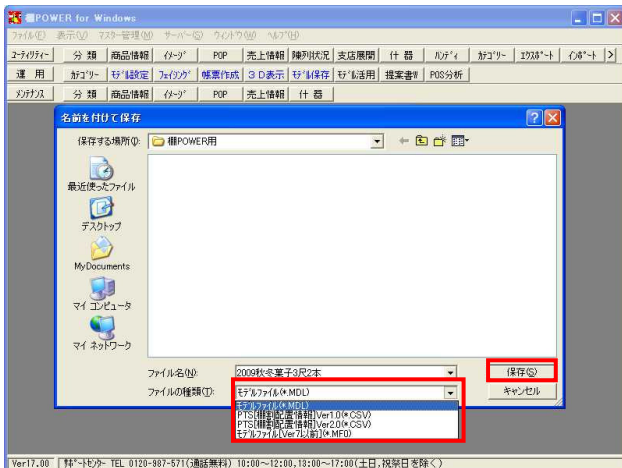
150. 以前のモデルを開いた場合は新規保存ではなく、上書き保存を表示します。モデルを以前保存したモデルとは別に保存したいときは、別モデル保存 をクリックして保存します。

内部モデルと外部モデル
新規保存した際に保存場所を選択しなかったように、新規保存 上書き保存 別モデル保存 を行なうと、棚POWERが管理している、あらかじめ決められた場所にモデルを保存します。この方法で保存したモデルを「内部モデル」と呼びます。1フォルダ内に保存するため、モデルの管理が容易で、またモデル参照時に、検索条件を指定可能です。

内部モデルに対し、棚POWERが管理している場所とは別の場所(マイドキュメントやデスクトップなど)に保存したモデルを「外部モデル」と呼びます。フォルダを分けることが可能なため、得意先ごとにモデルを管理することができ、他の担当者や得意先とモデルを受け渡しするのに便利です。



151. モデル情報をやり取りする際は、外部保存する必要があります。
外部保存 をクリックします。



152. 名前を付けて保存ウィンドウが開きました。保存する場所を指定し、ファイル名を入力します。
153. ファイルの種類を確認します。
棚POWER同士でモデル情報をやり取りする場合は、「モデルファイル (*.MDL)」を選択します。
先方が他社ソフトを使用している場合には、「PTS[棚割配置情報]Ver1.0 (*.CSV)」もしくは「PTS[棚割配置情報]Ver2.0 (*.CSV)」を選択します。
154. 保存 をクリックします。

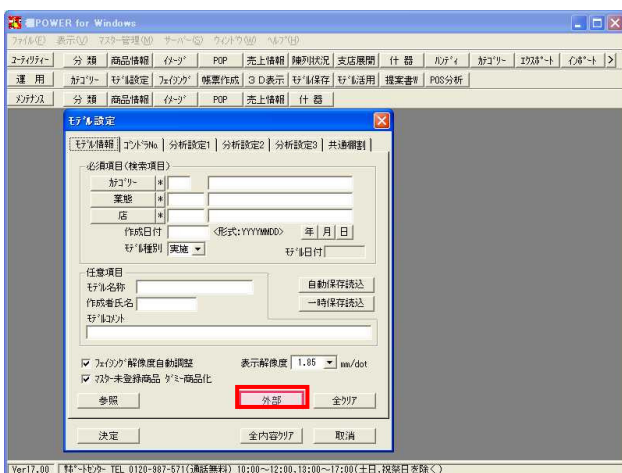
「PTS[棚割配置情報]Ver2.0 (*.CSV)」はVer1.0では持っていなかった仕器の情報を持つなど互換性が高まっていますが、先方が対応していなければ開くことができません。先方の対応状況を確認してください。

PTS出力対象モデルのモデル設定時に、モデルコメント欄にモデル名称を入力している場合は、ファイルメニュー・出力設定・PTSコメント出力設定で「モデルコメント」を選択しておく、PTSファイルのファイル名を「モデルコメント」で出力可能です。

PTS[棚割配置情報]でやり取りできる他社の棚割ソフトとして

- ・ StoreManager
- ・ 棚サイエンス
- ・ アポロ

などがあります。



155. 外部モデルを呼び出します。
モデル設定 をクリックし、外部 をクリックします。

156. フォルダの選択から外部モデルファイルを保存している場所を指定し、 OK をクリックします。

157. ファイルの種類を選択します。
 棚POWER形式の場合は「外部モデル [* .MDL]」を選択します。PTS形式の場合は「PTS [棚割配置情報] [* .CSV]」を選択します。

158. 外部モデル参照下に表示されたモデルをクリックして選択後、 開く をクリックします。

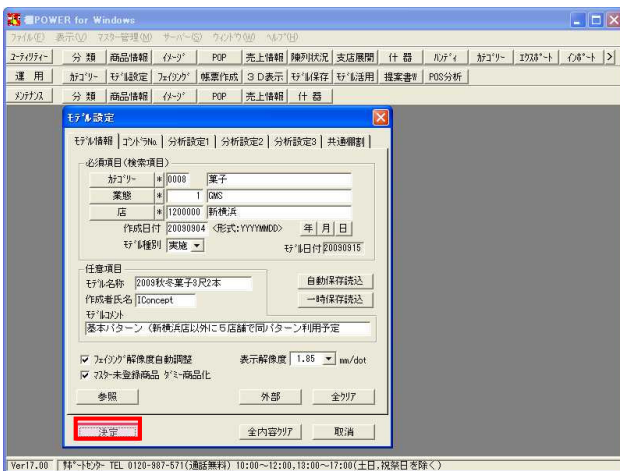
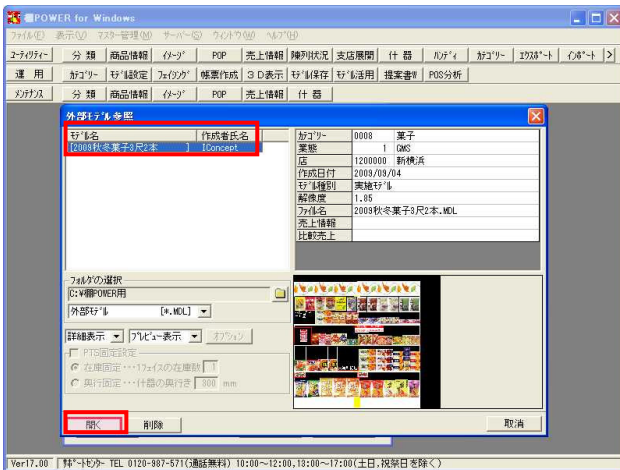
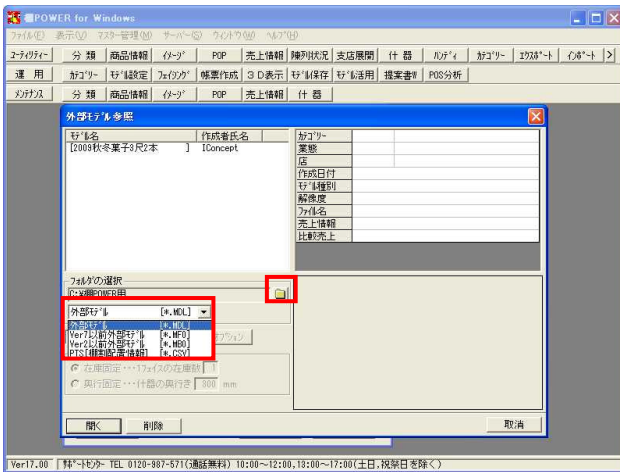
159. 必要に応じてモデル設定内の項目を変更します。

160. あとは内部モデルを呼び出した場合と同じです。
 決定 をクリック後 フェイシング や 帳票作成 などを行ない、 モデル保存 を実行します。

保存時は、もともとの外部モデルに上書き保存するか、別の外部モデルとして保存するか、新規保存 で内部モデルとして保存するかを選択可能です。

保存しない をクリックすると、モデルを呼び出してからの変更内容は破棄され、呼び出した時のモデルの状態になります。

161. 以上で「棚割・帳票編」は終了です。



- ※ 棚POWERは株式会社サイバーリンクスの登録商標です。
- ※ その他記載されている商品名、社名は一般に各社の商標および登録商標です。

棚POWER®

棚割・帳票作成編テキスト(Ver17.00)

2009年12月発行



発行

株式会社 **サイバーリンクス**
棚POWER事業室

江坂オフィス

〒564-0053 大阪府吹田市江の木町 17-1

コンパーノビル 8F

TEL: 06(6821)2571 FAX: 06(6821)2572

E-mail: tp-info@cyber-l.co.jp